令和2年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	Α	子育て世代に選ばれる地域の創造						
重点プロジェクト	2	教育再生による確かな成長の支援						
施策	1	特色ある教育による知・徳・体の向上						
	事業を地域と一体となって推進することにより、子どもたちの知・徳・体の成長を支援します。							

2 施策の指標における成果

	指標	単	基準値		達成値		目標値
	担保	位	本学世	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度
	学校以外での学習時間が2時間以上の中学生の割合 中3	%	32.8 [H29]	29.9	27.8	1	35.5
	外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う小学生の割合 小6	%	71.0 [H29]	-	63.1	1	増加
統計	毎日朝食を食べる中学生の割合 中3	%	96.0 [H29]	92.6	94.0	_	96.5
	「総合的な学習の時間」に自ら課題を立てて学習活動に取り組む小学生 の割合 小6	%	71.7 [H29]	79.4	60.4	-	72.0
	学校と地域が連携して実施した事業の実施	件	120 [H28]	128	134	150	135

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

	取り組み③	体験型学習の推進									
	手段	子どもたちが、個性や能力	を発揮し、自	らの夢の実現(こ向けて意欲に	的に取り組む	様々な体験学	習を推進しま	す。		
番号	佐竿た様に	成する事務事業名	担当課		事業費		重点化	方向性			
田万	ル東で構造	以りる事務争未有	担当床	平成30年度	令和元年度	令和2年度	里从化	成果	コスト	記号	
1	青少年育成事業		男女共同参画・ 若者サポート課	9,121	7,889	9,706		現状維持	縮小	3	
2	青少年育成施設運	営事業	社会教育課	6,088	6,216	7,090	0	拡充	縮小	4	

4 施策の評価

〇事中評価

	評価視点	評価コメント
(・青少年育成センターの新体制後の活動が今年度から始まったが、コロナ関係の影響で当初計画どおりには進んでいない。後半に期待し評価、改善、見直しを実施していく。 ・ジュニアリーダー養成講座は、コロナ感染症対策として中止となった。今後、運営方法等について検討が必要である。 「塩績体験学習の家」については、昨年度で用途廃止された「柏茂会館」の旧利用者の受け皿としての在り方を検討していく。 新型コロナウイルス感染症対策として「新しい生活様式」により青少年育成施設利用が減少傾向である。今後、終息が見通せない状態の中では日帰り利用の促進など新たな利用形態・利用時間等について検討を進める。
(2) 事業の重占化	・今年度の状況を見て、青少年育成センターやその構成団体、青少年問題協議会、子ども会育成会と、検討の場を持ち、あり方などについて再度検討、改善、見直しを図っていく。 「塩嶺体験学習の家」については、これまで「青少年育成施設」として運営してきたが、施設の活用という点で見た場合、費用対効果が薄いため、民業を圧迫しないような「一般宿泊施設」として運営できないか関係部署と検討していく。 ・施設の劣化に伴う雨漏りが「本館・新館」共に発生しており、早急に改修工事を実施する。また、建物の利用形態も縮小(新館休止)も含め施設の在り方を見直し、より有効活用できるよう方策を検討していく。
(3) 役割分担の妥当性	・青少年育成事業と子ども会育成会事業との関わり方を再考する必要がある。 ・今後、「塩嶺体験学習の家」に多額の営繕修繕費がかかる事を考えたとき、「青少年育成・体験活動を通じた生涯学習の推進」という、条例上の使用目的を見直し、観光面でも活用できるよう庁内で調整を図っていく。

(4) 施策指標の要因気	分析 ・事業評価シートにおける評価指標については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため事業の実施ができなかった事により、何れも実績値はゼロとなった。
(5) 施策の定性評価	・青少年育成センターの「見守り」を中心とした活動により、子ども達が安心して登下校できる環境づくりがより一層図られた。 ・青少年育成事業と子ども会育成事業については、実際に事業を進める区単位で事情が異なっており、再検討を進めるにあたっては現状の把握が重要となる。 ・「塩嶺体験学習の家」については、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、活発な運用が厳しい状況ではあるが、青少年育成施設として維持していくため、利活用を含め課題を解決していく必要がある。

評価者	所属	生涯学習	部		職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下	高秋			

〇実施計画

し夫が		+ 4 +		14.							In			- -		10 1 =00
事務			育成事業	Ē							担当課	5	月女共同			ポート課
目的	対象:	児童・生	E徒											体系		2-1-3
ניום	意図:	地域にお	ける児童σ	自主性	及び社会	性の向上を図ると	ともに、地	域の活動の	中心的	役割を担	ラジュニア・リー タ	ーを育成	新/継		継続	
-	_ F.T.	市内の	子ども会	:•育成	会活動	を促進するた	めの補助金の交付、次代の子どもたちを牽引						引するリー 区分			ソフト
7	F段:	ダーを	育成する	ジュニ	ア・リー	-ダー養成事業	の実施							会計		一般
				平成3	0年度			•	令和え	年度				令和2	2年度	
			F補導委.					年補導委員					年育成委			
在					導活動	(子ども会・育成				導活動	(子ども会・育成				頭巡視(子ども会・育成
	华山宗		見守り活動		4+n+ ^	a±		見守り活動		4+ n. A	o ± //		見守り活			a ± / l
7.7	K1 7 H		i会・育成 :ア・リータ					·会·育成 -ア·リータ					も会・育店 ニア・リー			
						^{川田} 権 補助金の交付	091-	-7-0-9	一食	以争未0.	川刑惟					^{/用惟} 補助金の交付
				2 T///			1 66 AT							3 7 T/M		
		決算額			(千円)	· ·	決算額			(千円)	· ·	決算額	• • •		(千円)	9,706
		青少年	補導関係	系		2,669	補導委	쏌踳員			1,672	育成委	慢報酬			875
-	** #	青少年	健全育成	事業	補助金	5,250	青少年	健全育成	事業	補助金	5,062	青少年	健全育	成事業	補助金	4,733
	業費 財源	ミシャワ	力派遣	事業		750	ながの子育で	て家庭優待パス	ポート継	売関連経費	594	ミシャワ	フカ派遣		0	
-,	別源	青少年	問題協調	養会		170	青少年	問題協議	会		24	青少年	問題協		27	
		その他				282	その他				537	その他				4,071
		特定		0	一般	9,121	特定		0	一般	7,889			0	一般	9,706
人正	E規職員	業務量	1.41	人	人件費	9,503	業務量	1.41	人	人件費	9,611	業務量	1.41	人	人件費	9,322
件「	嘱託員	業務量	0.96	人	人件費	2,840	業務量	0.96	人	人件費	2,630	業務量	0.00	人	人件費	0
費	合計		人件費合	計(B))	12,343		人件費合	計(B)		12,241		人件費	合計(B))	9,322
事業	費合計	合計 事業費合計(A)+(B) 21,46					事	業費合計	├(A)+(B)	20,130	30 事業費合計(A)+(B)				19,028
	指標1単たりコスト						評価	五指標(円]/単	位)	207,525	評値	西指標(円/単	位)	-
○= π /	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·															

○評価指標

	:	平成30年度	Ę	,	令和元年度		令和2年度			
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	
青少年補導委員の研修会参加者数(年/延べ数)	144	171	200	91	97	200	1	0	200	
ジュニア・リーダー養成研修会卒業生	16	34	32	34	51	50	0	0	65	

○事中評価

					評価	視点						今後の方向性							
	妥铂	当性			有效	沙性		効率	<u><u></u> </u>		成	拡充		4		2	1		
1	1 2 3 4 1 2 3								2	3	4	果の	現状維持		3	レ	5		
低い	低い やや やや 高い 低い やや やや 高い 低い やや やや 高い 高い								方向	縮小		6							
		総合評	価判定			総合評価						性	休廃止	7					
	i どおりに きの進めフ			が適当										皆減	縮	小	現状維持	拡大	
	€規模・内 をの統合・			検討								コスト投入の方向性							

前年度の課題等に 対する取組状況

・青少年育成センターのあり方について、青少年問題協議会を開催し検討した。子ども会育成会の役職の兼務状況についてアンケート ・青少年育成センターののサカに Jいて、青少年向越励磁気で開催した前した。テこの五百成気の及機の不切がかにこれて、パーリー調査を行った。 ・青少年問題協議会において、青少年育成委員と子ども会育成会の双方の役員の兼務、青少年育成委員の業務の見直しと削減につい

て検討した。

当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た に生じた問題等

・青少年育成センターと子ども育成会との住み分け、重複活動部分、差別化について、さらに踏み込んだ検討が必要である。・ジュニア・リーダー養成講座は、コロナ禍により、中止となった。参加者の減少、運営方法について、検討が必要である。・ミシャワカ市青少年派遣事業は、申込者の受け付けまでしたが、コロナ禍で渡航ができなくなったため中止となった。

新年度の予算要求事 項(改革·改善案)

・ミシャワカ市青少年派遣事業は、隔年実施しており今年度は中止したため来年度に持ち越すべきだが、令和4年度の派遣事業を相互派遣で実施する予定のため、予算要求しない。 ・青少年育成委員の業務縮小を検討中であり、報酬を若干縮小する予定である。

・青少年育成センターの在り方については、引き続き見直しを続け、子ども育成会との統合に向けて調整を進めること。・報酬の減額は認める。また、ミシャワカ派遣は、令和3年度に実施しないため減額とする。 第1次評価コメント

第2次評価コメント

○重後証価

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・青少年育成センターを運営し、見守り、巡回活動、有害環境の排除活動等を実施した。また、青少年育成委員と子ども育成会の役員兼務について、関係団体と協議を行った。 ・市子ども会育成連絡協議会及び地区子ども会育成会に事業活動補助金 4,733,240円を交付した。 ・地域における子ども会活動の活性化を図ることを目的に例年行っている、ジュニア・リーダー養成事業は、コロナ禍のため中止した。また隔年で実施しているミシャワカ市青少年派遣事業も、申込者の受付まで行ったが、事業を中止した。
成果	・地域ごとの地道な見守り、巡回活動により、青少年の非行防止と健全育成が図られた。 ・青少年育成委員と単位子ども会育成会長との兼務を推奨していくことについて、青少年育成委員、子ども会育成会、区長会のそれぞれの理事会で協議を行い理解を得た。これに伴い育成委員活動のスリム化を検討した。 ・コロナ禍で子ども会事業が中止になる中、屋外での活動のみ行った地区などがあり、児童、生徒の異年齢交流が図られた。
課題	・青少年育成委員活動のスリム化の検討と、センターの育成活動について内容を検討していく。 ・ジュニア・リーダー養成事業と研修終了後の卒業生によるリーダー会の今後の活動方法について、方向性を検討する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポー	ツ課	共生推進係	職名	課長補佐	氏名	三浦 恵美子	連絡先	(内線)	3150
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高和	阦	担当係長	į	共生推進係長	氏名	三浦	恵美子

〇実施計画

事務署	事業名	青少年	育成施設	殳運営	事業						担当記	R .		社会	教育課		
目的	対象:	市内外	の青少年	₣を主	としたが	起設利用者					*	_		体系		2-1-3	
日的	意図:	青少年	が「社会	を生き	ぬく力	」を身につける	ための	体験学習	['] の環:	境を提信	共する。			新/継		継続	
	ETL.	14 # A	&⇔ T1 → ₹1.4	4	. 무스 244 기기	o=o#+#	TO 1972	<u></u>				区分				ソフト	
+	段:	怕戊芸	黒及び 塩	益領14	、缺子首	の家の維持管	'理、理	로						会計		一般	
				平成3	0年度				令和え	元年度			'	令和	2年度		
年月	度別	〇柏茂:	会館管理	•運営			〇柏茂:	会館管理・	運営			〇塩嶺	体験学習	図の家管	き理・運営	堂	
事業	内容	〇塩嶺(体験学習(の家管	理•運営	\$	〇塩嶺	体験学習(の家管	理·運営	Í						
		決算額	(A)		(千円)	6,088	決算額	(A)		(千円)	6,21	決算額	(A)		(千円)		7,090
		臨時職	員賃金			1,672	臨時職員賃金等					会計年	度任用	職員報	栖		1,167
事美	業費	その他	諸経費			4,416	その他	諸経費			4,53	1 改修工	事(ガス	[事]		1,650	
• 則	才源											その他			4,273		
		特定		948	一般	5,140	特定	-	1,403	一般	4,81	3 特定		0	一般		7,090
人 正	規職員	業務量	0.12	人	人件費	809	業務量	0.12	人	人件費	81	業務量	0.12	人	人件費		793
	試託員	業務量	0.40	人	人件費	1,183	業務量	0.40	人	人件費	1,09	3 業務量	0.00	人	人件費		0
費	合計	計 人件費合計(B) 1,99						人件費合	計(B))	1,91	1	人件費·	合計(B)		793
事業	事業費合計 事業費合計(A)+(B) 8,080					8,080	事業費合計(A)+(B)) 事	業費合	計(A)+	(B)		7,883
		評価	評価指標1単 当たりコスト 評価指標(円/単位) 116,76				評価指標(円/単位) 1					9 評価指標(円/単位)					

○評価指標

	平成30年度				令和元年度		令和2年度			
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	
柏茂会館青少年育成団体の利用比率(%)	73.0	69.2	70.0	73.1	74.1	75.0	1	1	_	
塩嶺体験学習の家青少年育成団体の利用比率(%)	60.6	57.0	60.0	56.7	60.8	65.0	0	0	70.0	

○事中評価

〇事中	評価																		
					評価	視点								今往	多のフ	方向性			
	妥	当性			有刻)性			効率	率性		成	拡充		4	レ	2	1	
1	2	3	4	1	2	3	4	1 2 3 4				果の	現状維持		3		5		
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い やや やや 高い					縮小		6				
	•	総合評	価判定					総合	評価			向性	休廃止	7					
		:事業を進 方の改善		ことが適当 背派 縮小 現状維持								拡大							
		容・主体 ·休廃止0	体の見直し快討																
	度の課題 る取組																		
6ヶ月7	度開始(が経過)	し新た	となって 運営に	いる。(ついて、	新規予約 withコロ	対受付を ナでのS	中止、眼 2心安全	だに予約 な運営	済のもの 方法の村	のについ 食討が必	ては、E 要。	帰		利用者は県	内在	住者の)、8月現在、)みとした) 今		
	・塩嶺体験学習の家については、老朽化が著しく、今後維持していくかの検討に加え、下水処理について合併浄化槽へ転換するための時期等検討が必要となる。 ・塩嶺体験学習の家について今後の施設運営について、青少年育成事業として継続するか、一般の簡易宿泊施設とするか、費用対効果も含めて検討が必要である。																		
第1次	な評価コ																		
第2次	評価コ	メント		_															

○争後評価	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、原則日帰り利用のみの制限をかけたため一般の利用はなかった。 ・屋根の修繕工事(雨漏り)、ガス配管工事(ガス漏れ)を実施した。 ・館内建材中のアスベスト含有調査を実施した。 ・所有者である「鉱研工業(㈱)」が独自に本館のトイレ改修を実施した。
成果	・修繕工事の実施により、最低限の施設機能を維持することができた。 ・アスベスト含有調査により、館内の壁・天井にアスベストの含有が確認されたが、通常利用する範囲であれば人体等に影響ないことが判明し、通常の運営に支障がない事が確認できた。
課題	・施設の老朽化(屋根・外壁)が進んでおり、今後の維持について検討が必要である。 ・下水処理について合併浄化槽へ転換する時期等を検討する必要がある。 ・新型コロナウイルスの終息を見据えながら、今後の施設運営について、費用対効果を踏まえた上での検討が必要である。 ・本館のみでの運営形態を基本とし検討していく事となるが、新館については休止・廃止も含め検討が必要である。

作成担当者	生涯学習部 社	t会教育スポーツ	ツ課	社会教育係	職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先	(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポー	-ツ課長	氏名	田下 高	阦	担当係長	<u></u>	L会教育係長	氏名	大	塩 弘嗣

令和2年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	В	住みよい持続可能な地域の創造								
重点プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進								
施策	1	観光の振興								
		客核となる歴史的町並みを世代を越えた財産として、価値を高めるよう適切かつ持続的に保存するとともに、観光資源の効果 、観光客と市民の交流支援、国際化への対応等を行うことで、外国人も含めた観光客の市内への滞在時間の延伸を図ります								

2 施策の指標における成果

	指標	単	基準値		目標値		
	担保	位	本华胆	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度
統計	市内主要観光地の入り込み客数	千人	926 [H28]	1,145	1,107	485	1,050
गरहा	市内主要観光地の観光消費額	千円	764,220 [H28]	856,800	899,760	425,880	950,000
市民	塩尻市の特徴を生かした観光メニューが充実していると感じる市民の割 合	%	32.5 [H29]	35.5	34.8	36.2	33.0
叩氏	奈良井・木曾平沢の重要伝統的建造物群保存地区の町並みを誇りに思う 市民の割合	%	75.1 [H29]	75.6	69.8	73.5	76.0

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

	取り組み②	歴史的資源の保存と活用	的資源の保存と活用											
	世史的価値を有し、観光の核となるエリアや施設等について、滞留、滞在時間の延長につながる施設整備や既存施設の修繕等を推進します。 事業費 ・ ファック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・													
番号	佐竿去樓。	成する事務事業名	担当課		事業費		重点化							
钳万	ル東で伸展	以りる事務争未有	担当床	平成30年度	令和元年度	令和2年度	里点儿	成果	コスト	記号				
1	重伝建整備事業		社会教育課	13,065	16,506	5,582	0	拡充	拡大	1				

4 施策の評価

〇事中評価

	評価視点	評価コメント
(1))事業構成の適正性	・重伝建整備事業は「文化的景観を整える」事業であり、奈良井は選定から42年、木曽平沢は14年が経過し着実にその成果が現れている。今後も継続して事業を進め、来訪者には「感動」を、地域住民でも「変わったな」と分かるような事業を進めていく。
(2))事業の重点化	・昨年度から始まった「官民連携事業」がスムースに事業実施できるよう庁内で連携をしていく。新型コロナウイルス感染症の影響で、当面はインバウンドは期待できないため、閑散としている期間に出来る事(施設の周辺整備、ソフト事業の発掘・開発など)を見つけ、実施することで新たな情報発信等を行っていく。・世代交代により「文化材保護」という理念が希薄になってきているため、「制度についての周知活動」など、意識啓発の取り組みを実施していく。
(3))役割分担の妥当性	・修理・修景事業が継続して実施できていることは、地域住民の理解があってのことと理解しているが、「制度の拡充」の声があるので、建物所有者が事業の検討に移り易いように、補助事業の見直しを検討をしていく。

(4)	他東指標の要因分析	・修理・修景の継続的な事業を実施しているが、「古い町並み」という景観の魅力に留まっており「目新しい」魅力が少ないため、 指標の横ばいが起きていると考える。 ・観光課、産業政策課、観光協会などが実施している他事業と連携し、総合的一体的に「重伝建地区」を保存・活用するまちづくり を目指す必要がある。
(5)	施策の定性評価	・奈良井宿保存のきかつけとなった市所有の旧中村家住宅が国指定重要文化財となったことは、地域住民はじめ市民が地域資源を再認識する機会になったとともに、観光の集客拠点とするための話題づくりにもなった。 ・奈良井宿空き家再生プロジェクトなど官民連携事業等との連携を図り、文化財の公開・活用に対する協力者のすそ野拡大を目指すと共に、多様な主体の参画のもと、文化財支援ネットワークの強化を図る。

評価者	所属	生涯学習部			職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	文化財課	氏名	中村	琴江			

〇実施計画

	四日四															
事務	事業名	重伝建整備	帯事業							担当課			社会教	資課		
目的	対象:	重伝建地図	区内で建築	物等の	工事を行う者								体系		4-1-2	
נים 🗀	意図:	歴史的な町	丁並みの保	存と整値	備を行う。								新/継		継続	
_	EL	=n.=1 6+ ±m ±	ひょうき	~ ±± □									区分		ハード	
于	段:	設計監理及	又ひ工事質	の無助									会計		一般	
			平成3	0年度				令和元	年度				令和2	2年度		
	度別 (大容	〇奈良井 (〇木曾平沢		쿥			井 修理・ 平沢 修理・		į			井 修理 平沢 修		큰		
		決算額(A)		(千円)	13,065	決算額	(A)		(千円)	16,506	決算額	(A)		(千円)		5,582
		国宝重要文化則	才等保存整備事	業補助金		国宝重要文化財等保存整備事業補助金 16						(化財等保存	・活用事業	类養補助金		5,464
		(設計	ト監理費:2.	452. I	事費:10,454)	·					(設計監理費:1,			1.524.		
	業費 財源	事務費		,		需用費				74	事務費			,		118
- #	VI 111K	特定	12,456	一般	609	特定	10	6,414	一般	92	特定		3,794	一般		1,788
人正	規職員	業務量C).59 人	人件費	3,977	業務量	0.59	J	人件費	4,021	業務量	0.59	人	人件費		3,900
	属託員	業務量C).32 人	人件費	947	業務量	0.32	一人	人件費	877	業務量	0.00	人	人件費		0
費	合計	人件	‡費合計(B)		4,924		人件費合			4,898		人件費包				3,900
事業	費合計	事業費	17,989					21,404					9,482			
	指標1単 <u>-</u> りコスト				4,497,250	評価指標(円/単位) 3,567,373				3,567,373	評估	西指標(F	円/単	位)	4,74	1,245

○評価指標

	:	平成30年度	Ę	,	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
修理修景物件数	4	4	4	1	6	6	1	2	2
									·

○事中評価

	評価視点											今後の方向性						
妥当性 有					有效	効性 効率性					成	拡充		4	2	1	レ	
1	2	3	4	1	2						果の	現状維持		3	⑤			
低い	やや 低い	事を	高い	低い	やや 低い						方向	縮小		6				
		総合評	価判定					総合評価					休廃止	7				
	iiどおりに きの進めた			≤が適当										皆減	縮小	現状維持	拡	大
	C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討				A					/			コスト投入	の方向性				
	年の課具				(1-54) -	- to to	ロムナノ	<i>I= = 7 +</i>	・ムの次	401 A/C cft J	h+_ /	~-	どの声並え	と原本の生年ニュ	これで 原則	の担談では	古拉	TE #

前年度の課題等に 対する取組状況

・制度への相談に対して、わかりやすく伝えるための資料作成やホームページの更新を随時行っている。個別の相談では、直接現場で対応して建物を見ながら要望の聞き取りや制度への理解を求めている。

当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た に生じた問題等 ・新型コロナウイルスの影響により、施主の事業費負担が困難になったため、当初予定していた事業1件について実施を取り下げることとなったが、代わりに緊急性の高い別の物件の事業を急遽実施することで対応した。新型コロナウイルスの影響による経済状況の低迷が続けば、来年度以降もこのような、当初予定していた事業実施を取り下げるといった事が起きる可能性がある。

新年度の予算要求 事項(改革・改善案)

・修理修景事業については、国・県・市より事業に対する補助をしているが、その予算規模は、これまで奈良井・木曾平沢両地区合わせて年間補助額25,000,000円(国65%16,250,000円、県3%750,000円、市32%8,000,000円)の財源内に収まるよう、事業実施者の取りまとめおよび調整をした上で実施している。ただし、事業実施主体は個人(建物所有者)であり、相応の金銭的負担が生じることから、年度によって実施件数や事業内容・規模にバラつきが出る。それに伴い、事業費(補助額)も前年比で増減が生じるが、先述の財源枠内での予算額の増減については、今後も柔軟に対応していきたい。

第1次評価コメント

要求のとおり。

第2次評価コメント

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・奈良井、木曾平沢の両伝建地区において修景事業計2件を実施した。(奈良井・木曾平沢各1件) ・町並み相談会を開催し、令和3年度実施分について文化庁へ補助事業の申請を行った。 ・修理修景基準、補助金額算定方法など、条例や要綱だけでは十分に理解できないため、図や表を使い分かりやすい資料を作成した。 ・空き家購入者が増え、市外の所有者・業者からも連絡がくることが多くなったことから、地元組織や他部署との情報共有を図った。
成果	・文化財としての建造及び町並みの保存が進み、住民の文化財保護意識の向上に役立った。 ・相談者が年々増えており、作成した資料を活用することで、相談者に理解してもらいやすくなると同時に、説明する側も楽になったと感じる。なお、説明資料については、不足している部分や、わかりにくい箇所はその都度変更・追記をしている。 ・他部署との情報共有により建物の売買がおこなわれる前に、不動産業者や購入希望者などへ、前もって伝建制度の説明や注意事項など伝えることができるようになった。
課題	・歴史的町並みを将来にわたって維持していくためには、地元住民の理解が欠かせない。高齢化や世代交代、空き家への他地区からの転入等により伝建制度への理解が薄れつつある。これからも事業を継続的に実施し、地元住民に制度の効果を実感してもらうとともに、伝建制度の周知を図っていくことが必要である。・現状変更の許可基準には曖昧な表現が多く、建物ごと条件も変わってくるため、相談者に対して納得していただく説明をするには担当者の知識や判断力、制度への十分な理解が必要である。担当者が変わってもの事業が滞りなく遂行できる人員体制の整備が必要である。

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	南澤強	連絡先(内線		3138
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	I	担当係長		文化財係長	氏名	塩	原 真樹

令和2年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	В	住みよい持続可能な地域の創造
重点プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進
施策	2	新たな交流・集客の推進
H 180		文化・スポーツ等の地域資源を生かして、市民や来訪者の交流を促す場を整備するとともに、イベント等の誘致・開催による交流・ D機会を創出します。

2 施策の指標における成果

	指標	単	基準値		目標値		
	1日1示	位	本午世	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度
	市街地(大門地区・広丘駅周辺地区)における平日歩行者数	人	8,622 [H29]	7,479	8,406	7,566	8,715
統計	文化施設入館者数	人	65,112 [H28]	59,618	60,812	40,330	67,500
	スポーツ施設利用者数	人	502,335 [H28]	474,213	434,998	304,363	510,000
	快適で魅力ある中心市街地が形成されていると感じる市民の割合	%	14.4 [H29]	15.9	16.2	19.5	16.5
市民	歴史文化遺産を活用した交流活動が盛んに行われていると感じる市民の割合	%	24.4 [H29]	24.2	24.9	24.8	30.0
پر ان	子どもから高齢者まで誰でもスポーツに取り組める環境があると感じる市民の割合	%	35.3 [H29]	32.1	32.9	35.8	50.0
	週1 回以上スポーツ活動を行う市民の割合	%	32.9 [H29]	31.7	31.7	31.4	40.0

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

0 //	スとほかりゅうか	于木 沙 们 區 (水 /) 恒 (7 /)	/												
	取り組み②	文化資源を活用した交流の	D促進												
	手段	本市に根付いてきた文化資	資源を見つめ正	:源を見つめ直し、観光・教育・行事など様々な場面に活用していく市民の活動を支援します。											
	+- /r + +# -	+十7 市功市 # 4	±□ \V =⊞		事業費		壬上 //。		方向性						
番号	番号 施策を構成する事務事業名 		担当課	平成30年度	令和元年度	令和2年度	重点化	成果	コスト	記号					
1	北部交流センター管	社会教育課	-	59,558	43,024		現状維持	現状維持	5						
2	全国短歌フォーラム	社会教育課	17,094	16,771	7,114	0	拡充	現状維持	2						
3	楢川地区文化施設:	軍営事業	社会教育課	12,413	10,489	9,943		拡充	現状維持	2					
4	国指定文化財修理	事業	社会教育課	6,847	4,781	5,143		拡充	拡大	1					
5	ひらいでの里魅力で	ぶくり事業	社会教育課	1,070	1,076	817		拡充	縮小	4					
6	短歌館運営事業	社会教育課	15,600	7,508	8,999		現状維持	縮小	3						
7	自然博物館運営事	社会教育課	5,208	6,046	8,702		拡充	縮小	4						
8	縄文シティサミットin	しおじり開催事業	社会教育課	-	1,046	-		-	_	-					

	取り組み③	スポーツを通じた交流の促	進										
		地域やスポーツ団体と連携 ポーツを通じた交流を促進	して市民のスポーツ活動を支援するとともに、新体育館を中心としたスポーツ拠点の整備、充実を図り、ス します。										
₩ □	番号施策を構成する事務事業名		担当課		事業費		重点化		方向性				
田万			担ヨ味	平成30年度	令和元年度	令和2年度	里从化	成果	コスト	記号			
1	市民スポーツ振興事	スポーツ推進課	2,059	1,831	751	Δ	縮小	縮小	6				
2	競技力向上事業		スポーツ推進課	21,175	20,102	14,129		現状維持	縮小	3			
3	3 体育施設管理運営事業		スポーツ推進課	35,135	39,886	40,398	0	拡充	縮小	4			
4	4 総合体育館建設事業			197,117	636,213	2,421,562		休廃止	皆減	7			
5	5 総合体育館運営事業			-	_	14,854		拡充	拡大	1			

4 施策の評価

○事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・北部交流センター「えんてらす」は、開館から1周年を迎え市民をはじめ民間での利用も順調である。今後も、北部拠点としての活用を地元をはじめ広く活用していただけるよう、事業の推進・情報発信に努めていく。 ・短歌フォーラムin塩尻は新型コロナウイルス感染症対策から、レザンホールでの本大会は中止としたが、今後の状況を見据えなら新たな事業展開を検討していく。 ・楢川文化施設、特に旧中村家住宅は、昨年の調査報告書にもとづき、新たな価値付けを行えるステージに移っている。今後も楢川3館が連携し、集客等に寄与できるような事業を実施していく。 ・博物館に関しては、平出博物館はじめ「博物館の在り方」を議論する時期になっており、市として博物館をどうするか長期的展望に立ち議論していく必要がある。 ・ぶどうの郷ロードレースは、実行委員会の構成団体の意向を踏まえ新たな検討組織においてあり方の検討を進める。 ・総合体育館の開館に向け、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえたオープニングイベント等の取組みを進める。

(2) 事業の重点化	・北部交流センターは、北部拠点として地元商店街や周辺にある社会教育施設と連携し、生涯学習・交流事業等を実施していく。・短歌フォーラムin塩尻は、今年度実施した、全国の大学にある短歌会等へ直接投稿用紙を送付し、投稿を促した手法が若年層(10~20代)の投稿増に繋がったと考えるので、今後も裾野拡大のための手法を検討していく。・旧中村家住宅について、新たな価値付けを行えるステージに移っている。今後も楷川3館が連携し、集客等に寄与できるような事業を実施していく。・博物館に関しては、平出博物館はじめ「博物館の在り方」を議論する時期になっており、市として博物館をどうするか長期的展望に立ち議論していく必要がある。・市民がスポーツに取り組める環境整備のため、「競技力向上事業」、「体育施設管理運営事業」及び「総合体育館運営事業」を中心に、競技人口の増加、老朽化した施設の安全点検の強化、総合体育館の運営準備を重点的に取り組む。
(3) 役割分担の妥当性	・北部交流センターで実施していく事業は、「えんてらす」として各分野(広丘支所・広丘公民館・広丘図書館・北部子育で支援センター)の連携や、引き続き地元商店街・民間等との協働のもとに取組を進めるが、全体での調整を適切に推進するためには現状における枠組みが不可欠である。 ・短歌フォーラム事業は、市が主催の事業ではあるが、地域関係団体や地域住民の協力が不可欠な事業であり、また、広丘小学校・短歌館・島木赤彦寓居などハード面を活用した新たな事業展開も検討していく。 ・重要文化財等の公開・活用は所有者様の理解のもと実施できるので、今年度から策定準備に入った「文化財保存活用地域計画」を進めながら、行政として支援できる事を見極め共同で保存・活用していく。 ・市全体の博物館に関し、平出博物館を中心に今後の方向性・在り方を検討していく必要があり、庁内の遊休施設の活用を見据えながら、幅広い観点で計画を進めていく。 ・塩尻市体育協会などの関係団体と協力し、市民のスポーツを行う機会を提供していく。老朽化した施設が多い中、改修コストの平準化や効率的な維持管理の手法について検討を進める。

(4) 施策指標の要因分析	・文化施設の開館については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、消毒・検温・入館者の連絡先の確認などを徹底した。入館者数は感染拡大の影響により減少した。 ・入館者数の増加に向け、安心・安全で、かつ魅力ある施設としての仕掛けが必要である。館ごとに魅力ある展示、企画展の開催、など知識を持った職員などの配置を行う必要がある。 ・「スポーツ施設利用者数」は新型コロナウイルス感染症に伴う施設閉鎖などの影響により大きく減少した。「週1回以上スポーツ活動を行う市民の割合」「スポーツに取り組む環境~」の評価指標は共に目標値を下回った。既存のスポーツ施設利用者の固定化やスポーツに対する健康増進効果についての理解や、興味が薄いと考えられる。
(5) 施策の定性評価	・北部交流センターは開館以降、独自の取組みにより、地元商店街・高校とも連携が図られ、順調に利用が延び知名度も高まっている。 ・全国短歌フォーラムについて、本大会は中止となったが例年と同程度の投稿歌が寄せられた。本大会中止により来塩いただく機会が無く、「短歌と出会えるまち」として様々な交流事業につながらなかった。 ・自然博物館については、小坂田公園の再整備計画に伴い令和5年度末の移転が予定されているため、今後の自然博物館について意見を交わす場として研究会を立ち上げ検討を始めた。 ・スポーツ施策の既存事業や施設利用に対する市民満足度が高くない状況であるが、総合体育館を活用した新たな取り組みや利用方法の導入により、市民の関心を更に高めていくことが重要となる。

評価者	所属	生涯学習	部		職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下	高秋			

〇実施計画

					4											
事務	事業名		センター管理							担当課				教育課		
目的	、 対象	北部地域	の市民及び	来街者									体系		4-2-2	
	意図	北部地域	における地	域コミュ	ニティの活性	化や交流	たの推進	を図る	0 0			¥	新/継		継続	
3	手段:					子育て支	援機能、	公民	館機能、	図書館機能、	交流を	~~= <u></u>	区分		ソフト	
·		する機能	を備えた施設	没の整備	Ħ								会計		一般	
			平成3	0年度				令和元	元年度				令和2	2年度		
	度別 業内容			〇北部	交流センク	一管	理諸経費		〇北部	交流センク	ター管3	理諸経費	Ì			
)+ //r +=/.		(Z.D.)		_ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			(千円)		>+	-/.>		(= T)		
		決算額(A	()	(千円)		決算額	•	決算額			(千円)		13,024			
						開館事	業関連総	圣費		902	施設管	理委託料	斗		3	34,439
т.	**					施設管	理委託料	4		31,450	電力使	用料				6,167
	¥費 財源									19,959	上下水	道使用量				530
	7/1 ///									7,247	7,247 駐車場賃借料					300
											その他	Į.				1,588
		特定		一般		特定		349	一般	59,209	特定		340	一般	4	12,684
人口	E規職員	業務量	人	人件費	(業務量	2.00	人	人件費	13,632	業務量	1.00	人	人件費		6,611
	嘱託員	業務量	人	人件費	(業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費		0
費	告 人件費合計(B) 0) .	人件費合計(B)				入件費合計(B)				6,611			
事業	養合計	事業	費合計(A)+((B)	(事					事	業費合計	†(A)+((B)	4	19,635
評価指標1単 位当たりコスト 評価指標			旨標(円/単	位)		評個	西指標(円	一一	位)	521	評値	西指標(P	一一一	位)		345

〇評価指標

		平成30年度	Ę	,	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
利用者数(人)	-	-	-	39,390	140,582	100,000	36,855	144,022	130,000
				7、8月			4~7月		

○事中評価

○争中	○事中評価 評価視点 今後の方向性																
					評価	i視点								今往	後の方向性	Ė	
	妥铂	当性			有	协性			効≅	率性		成田	拡充		4	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	5 L	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6		
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7			
		:事業を進 方の改善		が適当										皆減	縮小	現状維持	拡大
	B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討										/			コスト投力	人の方向性		
・課題となっている「集客から交流につなげる仕組みの構築」について、信州大学「地域ブランド実践ゼミ」の提案である「えんぼーど」を 交流スペース内に設置し、7月より活用している。コロナ禍での差別や偏見をやめようという運動「シトラスリボンプロジェクト」をテーマに 活用を開始した。 ・Withコロナの最中であり、「シトラスリボンづくり講座」でプロジェクト発起人(愛媛県)とテレビ会議システム(ZOOM)を使用しリモート講演をいただいた。今後の講座等での利用を進めるきっかけとした。														をテーマに			
6ヶ月7	度開始行 が経過し じた問	し新た	下部に		発見され											・例としては、 善修繕費の予	
	度の予算要求 (改革・改善案) 体雨時の雨の吹き込み対策が十分でなく、対応が求められている。																
第1次	:評価コ	メント	・北部交流センターの建設が完了し、本事業は施設の維持管理費を計上するものとなるため、第3期中期戦略では行政評価対象外事業とする。														
第2次	評価コ	メント		_													

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・「集客から交流につなげる仕組みの構築」について、「えんぼーど」を開設し、SDGsに関するテーマ(環境、ジェンダー)設定を行い、えんてらす来館者の交流を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、県内ではいち早くシトラスリボンプロジェクトに賛同し職員が身に着けた。「シトラスリボンづくり講座」でプロジェクト発起人(愛媛県)とテレビ会議システム(ZOOM)を使用しリモート講演を行った。 ・企画したえんてらすコレクションはコロナ禍の中、延期、感染対策の徹底を図り開催することができた。
成果	・えんてらすコレクションとして予定した講座等の企画は感染が拡大していた時期の4企画を中止としたが、10企画を実施することができ、延べ1,000人の参加者があった。 ・「えんぼーど」では10のテーマで交流を図り、延べ690人の参加があった。コロナ禍の中での最低限の交流機会の創出となった。 ・えんてらすマルシェをはじめ、4団体が定期的にマルシェを開催している。利用者へのサービスや施設の周知を目指したイベントであり交流の場として定着してきている。 ・コロナ禍の中で施設の感染対策に留意し、来場者の協力も得て安心・安全な環境の創出ができた。
課題	・コロナ禍の中では、交流スペースの利用形態が交流を促す空間とはなっていない。コロナ後の交流促進をどのように進めるのか検討をする必要がある。

作成担当者	生涯学習部 中央公	〉民館北	部拠点担当	職名		氏名	中野 實佐雄	連絡先(内線)	5320
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高精	阦	担当係長			氏名	

〇実施計画

	7 7 11 1																	
事	務	事業名	全国短	歌フォー	ラム事	業	•			,	•	担当課			社会教	教育 課		
_	的	対象:	市民及	び全国の	短歌	愛好者									体系		4-2-2	
=	נים נ	意図:	短歌を	通じて、E	1本語	の美し	さ、素晴らしさ	を全国に	こ発信し、	塩尻	市をPR	する。			新/継		継続	
	エ	F.T.	人园仁	ab →	= , .	400	88 /**								区分		ソフト	
	手	技:	王国短	歌フォー	JДIГ	温九の	用惟								会計		一般	
		_		2	平成3	0年度				令和え	元年度				令和2	2年度		
Į			〇全国第 回)	豆歌フォー	ラムii	ո塩尻の	開催(第32	〇全国 回)	短歌フォー	-ラムir	ո塩尻の	開催(第33	〇全国: 回)	短歌フォ	ーラムir	n塩尻の	開催(第:	34
			決算額	(A)		(千円)	17,094	決算額	(A)		(千円)	16,771	決算額	(A)		(千円)		7,114
			全国短哥	ケフォーラム	事業	負担金	8,676	全国短	歌フォーラ.	ム事業	負担金	8,188	全国短	ひフォーラ	ラム事業	負担金		6,055
	事第	 養	企画演	出委託料	1		7,322	企画演	出委託料	4		7,458	会計年度	任用職員	費・悃砕員	用弁償		1,059
	• 財	掠	臨時職	員賃金			1,096	臨時職	員賃金			1,125						
			特定		28	一般	17,066	特定		23	一般	16,748	特定		7	一般		7,107
人	正	規職員	業務量	0.69	人	人件費	4,651	業務量	0.69	人	人件費	4,703	業務量	0.69	人	人件費		4,562
件	- 嘱	話員	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費		0
費	1	合計		人件費合	計(B))	4,651		人件費合	計(B)		4,703		人件費	合計(B))		4,562
事	業費	貴合計	事	業費合計	(A)+(B)	21,745	事	業費合計	├(A)+(B)	21,474	事	業費合	計(A)+((B)	1	1,676
		標1単 りコスト						評値	西指標(円]/単	位)	114,834	評价	西指標(円/単	位)	6	2,436

〇評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
一般の部市内投稿者数	156	156	190	187	187	190	187	187	190
一般の部大会参加者数	600	600	600	-	600	600	-	0	600

〇事中評価

〇 事中評価																	
				評価	視点								今往	後の方向性	ŧ		
妥	当性			有刻	 沙性			効≅	率性		成	拡充		4	2	レ	1
1 2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	⑤		
低い 作や 低い	やや 高い	高い	低い	も使から	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6			
	総合評	価判定	!				総合	評価			性	休廃止	7				
A:計画どおり B:事業の進め	方の改善	の検討						`					皆減	縮小	現状	維持	拡大
C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討														コスト投力	人の方	向性	
・これまでの投稿募集に加え、若年層をターゲットとして、大学の短歌サークルのなど約300団体等を中心に募集案内をかけたところ10 前年度の課題等に 対する取組状況 ・ 20代までの投稿者が増加した。 ・フォーラムでのトークショーゲストや塩尻みてある記の講演会にも若い世代のゲストを迎える企画を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。																	
6ヶ月が経過	し新た											めの方法を iる。	検討しておく	(必要がある			
・過去資料(作品集・映像資料)の有効活用方法について検討する必要がある。 ・過去資料(作品集・映像資料)の有効活用方法について検討する必要がある。 ・幅広く事業PRを行うことを継続しつつ、ある程度ターゲットを絞ってPRを行うことで、少しずつではあるが成果が見られるため、足を運 が、でのPRやメディアを利用してのPR強化は必要である。 ・若年層を中心に短歌に興味を持ってもらえるようなイベント機会を増やしていく。 ・予算規模は現状維持としたい。																	
第1次評価:	コメント	・大会のマンネリ化防止や新型コロナウイルス感染症対策のため、NHKへの委託料を含めて短歌フォーラムの開催方法を抜本的に見直すこと。また、ターゲットに応じて新たな発信の工夫をすること。 ・過去大会の資料のデジタル化実施については認めるが、予算配分枠は増額しない。R2年度の予算額16,755千円の範囲内で実施すること。															
第2次評価:	コメント	・短歌フ	・短歌フォーラムの全体事業費が高額であるため、開催方法の見直しを行い事業費の縮小等に努めること。														

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・新型コロナウイルス感染症の影響により、全国の来塩者が安心して参加できる状況でないことから、第34回全国短歌フォーラムin塩 尻「一般の部」及び「学生の部」のレザンホールでの大会を中止とした。 ・大会を中止とする一方、選者による投稿歌の選考と各賞の決定を行い、作品集及びホームページ内で発表し、受賞者には記念品を 送付した。 ・全投稿歌を掲載した作品集も例年通り作成し、上位入賞歌には選者の選評コメントを掲載するなど工夫した。
成果	・若年層の短歌愛好者を引き込むため、全国の大学及び大学の短歌サークル等を中心に投稿の呼びかけをしたところ、20・30代の投稿が前年比で1.7倍に増加した。 ・コロナ禍で投稿者数の大幅な滅を予測したが、例年並み(一般の部投稿者数1,282人)の投稿者数となった。
課題	・大会が中止となった場合の対応について検討していく必要がある。また、通常開催の場合についても引き続き、開催内容の見直しが必要である。 ・全国からの集客ができない場合でも、小規模イベントを開催するなど、継続した短歌活動の機会を増やしていく必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ	社会教育スポーツ課		職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先	(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高標	阦	担当係長	社	t会教育係長	氏名	大	:塩 弘嗣

〇実施計画

<u> </u>	大心	Ī																
事	務事	業名	楢川地[区文化旅	設運	営事業						担当課			社会	教育課		
	的	対象:	市民及	び市外か	いらの	来館者									体系		4-2-2	
Н	מם	意図:	木曽漆	器や宿場	闘町の	歴史文	化等を学習す	る機会と	ニ場を提信	共する					新/継		継続	
	手段	п.	夕长訊。	の電学し		豆 速点	E等を開催する								区分		ソフト	
	士科	又:	台 他故(ル理呂C	正凹	茂、 舑臼	E寺で用作9で)							会計		一般	
					平成3	0年度				令和元	年度				令和:	2年度		
	年度	민	○各館a)管理運	堂			〇各館	の管理運	営			○各館(の管理運	営			
	サス			人講座 等		催			展、講座等		崔			民、講座		催		
=	オ木ト	714	〇中村氏								_					.–		
			決算額((A)		(千円)	12,413	決算額	(A)		(千円)	10,489	決算額	(A)		(千円)		9,943
			臨時職	員賃金			6,595	臨時職	員賃金等	手		6,915	会計年	度任用	職員報	栅		6,363
	事業		中村邸	調査委託	E料		2,595	営繕修	繕料			662	営繕修	繕料				452
	•財	源	その他記	者経費			3.223	その他	諸経費			2.912	その他	諸経費				3,128
			(*>	14.12.54			0,220	()	111111111111111111111111111111111111111					притос				0,120
			特定		2,934	一般	9,479	特定		2,838	一般	7,651	特定		1,687	一般		8,256
人	正規	見職員	業務量 0.00 人 人件費					業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費		0
件	嘱	託員	業務量	0.88	人	人件費	2.603	業務量	0.88	人	人件費	2.411	業務量	0.88	人	人件費		2,669
費	4	計	人件費合計(B) 2,6						人件費合	計(B)		2,411		人件費包	<u>↑</u>)		2,669
車		·合計		業費合計			15,016		業費合計			12.900		業費合			1	2,612
7	不見	ГПП	子	木只口 印	1 (7 () (راح,	13,010	7	不見口口	1(//)'(٥,	12,300	7	不見口	11 (/1) ' ((0)	<u>'</u>	2,012
		標1単	評価	指標(円	1/単	位)	1,008	重平 位	五指標(P	9/単	(分)	883	証布	話指標(F	コノ単	位)		1,655
位	当たり	リコスト	атіш		, +	<u> </u>	1,000	BIII	1) 75) CI	ı, +	1-1-/	000		1) 자 다	3/ +	127		1,000

〇評価指標

		平成30年度	Į.	,	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
文化施設入館者数	7,671	14,897	16,000	8,506	14,611	16,000	353	7,622	16,500
							R2.6.30現在		

〇事中評価

<u> </u>																
			評価	i視点								今	後の方向性			
妥当性			有刻	防性			効≥	率性		成	拡充		4	2	レ	1
1 2 3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	5		
低い やや やや 低い 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6			
総合詞	価判定	!				総合	·評価			性	休廃止	7				
A:計画どおりに事業を B:事業の進め方の改善		≤が適当				•	3					皆減	縮小	現状終	隹持	拡大
C:事業規模・内容・主体 D:事業の統合・休廃止		検討				•	,						コスト投入	の方向	付性	
前年度の課題等に 対する取組状況																
当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た に生じた問題等	- 3館の館長について今年度より楢川支所長が兼任となっているが、支所長の業務に追われ、3館の長としての業務にほとんど手が回らない状況。従来通り館長を1名配置したい。また、館長分の職員が滅になったことにより、各館には常時会計年度任用職員(旧臨時)が1名しかいない状態となっているため、安全面や来場者へのサービスの点などから見て問題があると考える。 ・ 労者と対象に行っている実施拡大予防対策として、毎年木・曽漆器館で開催している講座 (漆塗り体験・食文化体験)及び団体・個人見 ・ 労者を対象に行っている実施の終付は体験については、3変となる可能体が良いため、金年度の関係を加止した。															
新年度の予算要求 事項(改革・改善案)	・会計年度任用職員(施設長および施設職員)の増員をお願いしたい。(特に、来場者の多い中村邸や体験教室を実施している木曽漆器館は、少なくとも冬期以外は常時2名勤務体制がとれるようにしてほしい。) ・会計年度任用職員の事務連絡、出退勤管理等の業務簡素化のため、贄川関所、中村邸へ職員用パソコンの設置が急務である。(木															
第1次評価コメント	・会計年	F度任用	職員(旅	西設職員)の増員	は認め	ない。現	状の業	努内容 に	こつし	いて見直しを	行い、業務	簡素化を推	進するこ	٤.	
第2次評価コメント		_														

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、施設の運営を行った。(消毒、検温、入館者の連絡先の確認など) ・当初予定していた、木曽漆器館での体験講座(漆塗り体験・食文化体験)及び漆箸絵付体験は新型コロナウイルス感染症拡大防止 のため中止とした。 ・中村邸の国の重要文化財指定に伴い、楢川地区にお住いの方へ指定概要の配布を行い、併せてパンフレットのリニューアルを行った。 ・贄川関所の道路側に面している柵が老朽化し、倒壊が予想されるため改修を行った。
成果	・緊急事態宣言発令に伴う休館や新型コロナウイルス感染症拡大により、楢川3館ともに入館者数が大幅な減少となった。(前年比48%減) ・施設の補修等により、来館者等の安全面への対策を講じた。
課題	・今年度、贄川関所の柵の修繕を行ったが、ほかにも老朽化が進み危険な状態となっている箇所があり継続的に修繕をしていく必要がある。また、中村邸の中庭の柵も土台が腐食し傾いているため修繕が必要となっている。・・中村邸は、県外からも大勢の方が訪れており、見学者だけでなく施設職員の感染リスクも高まるため、今後も予防策を実施していく必要がある。・・木曽漆器館に所蔵されている、国指定有形民俗文化財の「木曽塗の製作用具及び製品」(3,729点)の台帳が紙ベースによるデータしかないため、4年前から電子データ化する入力作業を行っている。現状1割程度の進捗状況であることから継続的な取り組みが必要である。・・新型コロナウイルス感染症の終息を見据え、3施設の連携事業や活用について検討する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	文化財課		文化財係	職名	主事	氏名	櫻山 博史	連絡先	(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	E E	氏名		琴江	担当係長		文化財係長	氏名	塩	原 真樹

〇実施計画

事務	事業名	国指定	文化財修	逐理事業						担当課			社会教育認	#	
目的	対象:	国指定	重要文化	比財所有者									体系	4-2-2	
日的	意図:	貴重な	文化財の	保存・活用を	図る。							7	新/継	継続	
手	段:	建築物	の修理										区分 会計	ハード 一般	
			3	平成30年度				令和元年	年度				令和2年度		
	度別 (内容	〇国指統	定重要文化	化財堀内家住!	宅修理工事	〇重要	文化財小	松家住宅	已耐震	診断業務委託	○重要	文化財小	松家住宅耐	震診断業務	委託
		決算額	(A)	(千円)	6,847	決算額	(A)	(-	千円)	4,781	決算額	(A)	(千円	3)	5,143
	決算額(A) (千F 指定文化財修理補助金 ・財源				6,847	耐震影	》断委託	料		4,781	耐震診	*断委託#	<u>박</u>		5,143
		特定		0 一般	6,847	特定		2,533	一般	2,248	特定		2,725 一般	Ž	2,418
人正	規職員	業務量	0.35	人人件費	2,359	業務量	0.35	人人	件費	2,386	業務量	0.35	人人件	費	2,314
	属託員	業務量	0.17	人 人件費	503	業務量	0.17	人人	件費	466	業務量	0.00	人 人件	費	0
費	合計	,	人件費合	計(B)	2,862		人件費台	>計(B)		2,851		人件費台	計(B)		2,314
事業	費合計	事	業費合計	(A)+(B)	9,709	事	業費合語	†(A)+(B))	7,632	事	業費合詞	†(A)+(B)		7,457
	指標1単 りコスト	評価	5指標(円]/単位)	9,709,000	評值	価指標(F	円/単位	<u>(</u>)	7,632,400	評价	西指標(P	円/単位)	7,45	6,850

〇評価指標

		平成30年度	E		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
文化財修理工事等の実施件数	1	1	1	1	1	1	1	1	1

〇事中	評価																	
					評価	視点								今往	後の方向性			
	妥当	当性			有效				効≥	率性		成	拡充		4	2	1	レ
1	2	3	4	1	2	3 4 1 2 3 4					果の	現状維持		3	5			
低い やや 高い 高い 低い やや 高い 高い 低い やや 高い 高い												方向	縮小		6			
	総合評価判定総合評価										性	休廃止	7					
		事業を進 方の改善		が適当				,	•					皆減	縮小	現状維持	拉	大
	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討														コスト投入	の方向性		
	前年度の課題等に 対する取組状況 ・小松家住宅については、耐震診断業務が8月で完了した。今後は、診断結果を基に構造補強、屋根の葺替え、壁の補修といった修理工事(令和4年~5年度予定)や自火報設備の改修等(令和6年度予定)を順次実施していく。																	

当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た に生じた問題等 ・小松家住宅については、市の大切な歴史資源として公開・活用すべく、引き続き先述した工事を実施する。 ・文化財(特に建造物)は一度修理をすれば終わりというものではない。市内には現在、国指定重要文化財(建造物)が6件(いずれも に生じた問題等 図っていくことが大切である。

新年度の予算要求 事項(改革・改善案)

・小松家住宅修理工事を実施するにあたり、来年度に工事計画書を作成する。重要文化財建造物の修理には専門性・特殊性が求められ、国庫補助金も活用することから、同計画書の作成については、重要文化財修理の実績がある業者に委託する。また、奈良井伝建地区内にある旧中村家住宅(中村邸)は、指定文化財であるとともに史料館として不特定多数の者が来館する建物にも関わらず、これまで自火報設備が未設置であったため、設置工事を実施する。

第1次評価コメント

・R3年度の旧中村家住宅自動火災報知設備設置工事は実施を認める。 ・小松家住宅修理については、文化財保存活用計画策定前の実施を見送り、R5年度の実施とすること。投資規模が大きくなるため、 同計画に小松家の活用について明確に位置付けること。

第2次評価コメント

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・重要文化財小松家住宅の耐震診断業務について滞りなく実施できた。今後の修理方針等についても文化庁との調整を適時行った。
成果	・診断の結果、「重要文化財(建造物)耐震診断指針」の「安全確保水準」(大地震動時に倒壊しない)を満たさないことが確認された。 ・耐震補強が必要であるとの診断結果となったため、水準を満たすことのできる耐震補強案の策定を行った。この補強案を将来の修理工事時に反映させていく。
課題	・重要文化財建造物については、耐震診断実施後、速やかに診断結果に基づいた耐震補強を実施するよう文化庁より通知が出されている(会計検査でも全国的に指摘されている)。したがって小松家住宅についても、耐震補強および傷みが激しい屋根の茅材葺き替えや土壁などの修理工事を速やかに実施する必要がある。また、修理工事後の施設管理や一般公開の在り方についても検討が必要である。

作成担当者	生涯学習部 文化則	課	文化財係	職名	係長	氏名	塩原 真樹	連絡先	(大	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴	江	担当係長		文化財係長	氏名	塩	原 真樹

〇実施計画

	務事業名	ひらし	での	里魅	力づく	り事業						担当課			社会教	教育課	
目	₆₀ 対象	.: 市民:	全体及	及び市	外か	らの来	訪者					•			体系		4-2-2
Н	意図	: 交流	や誘を	字を促	進す	るととも	に、地域づくり	に寄与	する地域	找資源 (の利活	用を図る。			新/継		継続
	手段:	71.71	マー	9±+-	~ II 7/	トイドエ日 ナル	15 A TO	目が しゃ	u tt 次店	の江戸	B1-01	ヽてのWS・懇詞	火人生。	の間/生	区分		ソフト
	丁权.	المحال	・じ退	. 跡 よ・	ノウル	人心况坦	・フォーク寺の	刑惟こり	凹以貝까	いノカト	けに フし	・COVVO-怨記	火云守り	り用惟	会計		一般
				ㅋ	平成3	0年度				令和	元年度				令和2	2年度	
	年度別 『業内容	〇魅力 〇歴5 〇「ひ	りづくり 史文化 らいで	遺跡まり り懇談 セミナー での里」 役割等	会 一 ウォ -		査・検討WS	〇魅力 〇歴史 〇「ひら	ハで遺跡。 づくり懇談 文化セミ いでの里 館の役割	と と と と と し し し し し し し し し し し し し し し		査・検討WS	〇魅力 〇歴史 〇「ひら 〇博物	いで遺跡でより懇談文化でいての質がでの質がでの質がでの質がない。	淡会 ナー E」ウォ- II等につ	いて調	查·検討WS 想策定
		決算額	預(A)			(千円)	1,070	決算額	(A)		(千円)	1,076	決算額	(A)		(千円)	817
		遺跡ま	こつりま	実行委	員会:	負担金	793	遺跡ま	つり実行	委員会	負担金	816	遺跡ま	つり実行	委員会:	負担金	411
	古光弗	講師	射礼				90	体験講	座材料	費		65	体験講	捧座材料	費		20
+	事業費 •財源	その化	也				187	その他	ļ			195	その他	1			386
	N I am																
		特定			0	一般	1,070	特定		0	一般	1,076	特定		0	一般	817
人	正規職	美 業務量	<u>t</u> 0).13	人	人件費	876	業務量	0.13	人	人件費	886	業務量	0.13	人	人件費	859
件	嘱託員	業務量	業務量 0.46 人 人件費 1,						0.46	人	人件費	1,260	業務量	0.00	人	人件費	0
費	合計		人件費合計(B) 2,2						人件費台	計(B)	2,146		人件費·	合計(B))	859
事	業費合詞	+ -	事業費合計(A)+(B) 3,3						業費合語	†(A)+	(B)	3,222	事	業費合	計(A)+((B)	1,676
	西指標1년 当たりコス		価指	標(円	/単	位)	142	評値	西指標(F	円/単	.位)	133	評価	面指標(円/単	.位)	98

○評価指標

	:	平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
平出遺跡公園来場者数	11,053	23,213	22,000	11,455	24,251	23,000	5,486	17,166	23,000
									·

〇事中評価

	総合評価判定 総合評価 総合評価 総合評価 国どおりに事業を進めることが適当業の進め方の改善の検討業規模・内容・主体の見直し検討業の統合・休廃止の検討													今往	後のブ	方向性		
	妥当	当性			有效	为性			効率	陸性		成	拡充		4	レ	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3		5	
低い			高い	低い			高い	低い			高い	方向	縮小		6			
												性	休廃止	7				
B:事業	の進める	方の改善	の検討								皆減	縮	計小	現状維持	拡大			
	C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討																	
	D:事業の統合・休廃止の検討														皆まえつ			
6ヶ月:	度開始復が経過□	し新た															者も外出自粛 討する必要が	
	度の予算 改革・改			ら化が著 営基本構			の復元	建物の記	收修を年	次計画	的に進め	りてし	ハく必要があ	る。				
第1次	マ評価コ	メント	·提案 <i>0</i>)とおり。														
第2次	マ評価コ	メント									_							

〇事後評価

最終評価者

〇 尹 陝 田 區														
区分				年間(4月~	3月)									
取組内容	•新平出博物館整備	感染症の影響で第17回ひ こ向け、基本構想検討委員 で遺跡まつりの代替事業と	会(延	ヾ3回)を開催した	٥-	開催した。								
成果	ローチの可能性が見・新平出博物館基本	平出遺跡フォトコンテストを開催したところ、写真愛好家というジャンルから遺跡への来訪を促す事ができ、違分野の魅力発信アプーチの可能性が見いだせた。 近野出博物館基本構想検討委員会では、新しい博物館で扱う対象分野や基本テーマなどについて議論するなど、新博物館の整備にけた方向性が示された。												
課題	・新博物館の整備に向け根幹となる基本構想を取りまとめるとともに、より具体性を帯びた基本計画の策定を計画的に推進していく必要がある。													
作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩	由香	連絡先(内線)	5591					

担当係長

氏名

大塩 由香

氏名

小松 学

平出博物館長

〇実施計画

事	務事	事業名	短歌館	運営事業	集							担当課			社会教	教育課		
П	的	対象:	市民及	び市外な	いらの	来館者									体系		4-2-2	
Н	הם	意図:	「短歌 <i>0</i>)里塩尻	」を全	国に発	信するとともに	、短歌を	通じ芸術	衍文化	の推進	を図る。			新/継		継続	
	手	:л.	'生口 士	事体の	一一	. 次小山	生 数田儿女	ケニ 可わ 土	- 쓰 소표	田の	88 /#				区分		ソフト	
	7-1	文:	退血"不	音音寺の	() () ()	具科拟	₹・整理保管	、冠状ノ	、子•正世	展の	刑惟				会計		一般	
					平成3	0年度				令和え	定年度				令和:	2年度		
	年度	1 別		展、学習記		の開催			展、学習講		の開催		〇企画			の開催		
=		内容		の収集・書 き理運営	Ě埋				の収集・整 管理運営	埋			○資料の					
				- TE D				O MB 07	B TE B				O MB 07		-			
			決算額	(A)		(千円)	15.600	決算額	(A)		(千円)	7.508	決算額	(A)		(千円)		8,999
			臨時職	員賃金等			2.574	臨時職	員賃金等	ŧ		2.619	会計年	度任用	職員報	等櫃		4,584
			営繕修	繕料	-		1,232	講師謝	礼	-		796	講師謝	礼				530
	事業		薬医門	復旧工事			7,020	営繕修	繕料			1,037	営繕修	繕料				889
	•財	冰	展示資	料購入費	貴		491	その他				3,056	その他					2,996
			その他				4,283											
		•	特定		595	一般	15,005	特定		568	一般	6,940	特定		252	一般		8,747
人	正規	規職員	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費		0
件	嘱	託員	業務量	0.75	人	人件費	2,219	業務量	0.75	人	人件費	2,055	業務量	0.75	人	人件費		2,275
費	1	合計		人件費合	計(B))	2,219		人件費合	計(B)		2,055		人件費·	合計(B))		2,275
事	業費合計 事業費合計(A)+(B) 17,8						17,819	事	業費合計	(A)+(B)	9,563	事	業費合	計(A)+((B)	1	1,274
	評価指標1単 立当たりコスト 評価指標(円/単位)					1,113,688	評個	五指標(F]/単	位)	683,071	評個	五指標(円/単	位)	2,25	54,750	

〇評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
企画展・講座等の開催数	6	16	15	7	14	15	1	5	15

○事中評価

					評価	視点								今後	後の方	向性		
	妥当	当性			有刻	沙性			効≅	뚇性		成	拡充		4		2	1)
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	ヘ	5	
低い	やや低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6			
		総合評	価判定					総合	·評価			性	休廃止	7				
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 B:事業の進め方の改善の検討									小	現状維持	拡大							
B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												コスト	投入	の方向性				
前年度の課題等に 対する取組状況 ・ 新型コロナウイルスの影響により、講座等の事業が実施できない状況である。館内のレイアウトと展示物の見直しを行い、観覧しやすい環境を整備した。											観覧しやす							
6ヶ月	度開始(が経過)	し新た	・毎年、	周辺の	松林整備	情におい	て発生し	た落ち	葉などの)処分に	苦慮して	こおり	リ処分方法を	検討する必	要があ	る。		
	新年度の予算要求 事項(改革・改善案) ・図書館や他の博物館と連携を図り、魅力ある企画展示を展開していく。																	
第1次	マ評価コ	メント	·提案 <i>0</i>	提案のとおり。														
第2次	マ評価コ	メント									_							

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・塩尻短歌大学(全3回)、企画展(春・秋)を開催した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、百人一首入門講座(全5回)と短歌の里百人一首大会を中止とした。 ・トイレの洋式化工事を実施した。また、館内のレイアウトや展示物の見直しを行った。
成果	・新型コロナウイルス感染症対策を講じたなかでの、短歌大学及び企画展の実施により、多くの方に短歌の里の魅力を発信できた。 ・トイレの洋式化及び館内レイアウト等を変更することで、来館者の利便性向上を図った。
課題	・新たな来館者を得るための事業を企画していく必要がある。 ・建物の耐震改修が必要である。老朽化に伴う修繕を計画的に実施する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポート	ソ課	社会教育係	職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先	(内線)	3136
最終評価者	社会教育ス	パポーツ課長	氏名	田下 高	秋	担当係長	社	t会教育係長	氏名	ナ	塩 弘嗣

〇実施計画

事	務事	業名	自然博	物館運営	営事業							担当課			社会	教育課		
目	6/5	対象:	市民及	び市外が	からの	来館者									体系		4-2-2	
Н	נים	意図:	自然を	学ぶ学習	習の機	会と場る	を提供する。								新/継		継続	
	手段	п.	小面 屋	白針毛	一一二	市 白象	 然観察会等の閉	目/址 4点	地へ発気	= + 4=	. =				区分		ソフト	
	士!	又:	正凹质	、日然作	十一一一	坐、日 系	公観祭云寺の ほ	刊准、貼	報の光1	1211	J.				会計		一般	
					平成3	0年度				令和	元年度				令和	2年度		
:	年度			展、学習:	講座等	の開催			展、学習調	構座等	の開催				講座等	の開催		
事	業	内容	○資料の	り整埋 管理運営				○資料の	の整埋 管理運営				○資料	の整埋 管理運営				
			ORBOJE	5 坯建置				O RE U	日任廷古				の語の	日生建立	5			
			決算額	(A)		(千円)	5,208	決算額	(A)		(千円)	6,046	決算額	(A)		(千円)		8,702
			臨時職	員賃金等	等		2,813	臨時職	員賃金等	手		2,830	会計年	度任用	職員幸	B酬等		5,847
	—— »		企画展	展示等	委託料	ļ.	350	企画展	展示等都	を託料	4	350	企画展	展示等	委託米	4		350
	事業 •財		害虫駆	除委託	料		432	営繕修	繕料			751	標本同	定作業	等委託	モ料		789
	- 5/1	小小	その他				1,613	その他				2,115	その他					1,716
			特定		687	一般	4,521	特定		641	一般	5,405	特定		643	一般		8,059
人	正规	見職員	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費		0
件	嘱	託員	業務量	0.90	人	人件費	2,662	業務量	0.90	人	人件費	2,466	業務量	0.90	人	人件費		2,730
費	4	信	人件費合計(B) 2,662						人件費合	計(B)	2,466		人件費	合計(B	3)		2,730
事	業費	合計	事業費合計(A)+(B) 7,8					事	業費合計	†(A)+	(B)	8,512	事	業費合	計(A)+	(B)		11,432
		標1単	評価	指標(F	月/単	位)	920	評值	西指標(円]/単	位)	865 評価指標(円/単位)						1,481

○評価指標

		平成30年度	Ę	,	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値(事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
自然博物館の入館者数	6,086	8,556	6,500	6,953	9,842	6,800	1,875	7,718	6,800
							R2.7.31現在	·	

ヘキャデル

〇事中	評価																	
					評価	視点								今征	後の方	向性		
	妥当	当性			有交	沙性			効率	率性		成	拡充		4	レ	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3		5	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い 高い 低い もや 高い						方向	縮小		6			
	総合評価判定総合評価										性	休廃止	7					
		事業を追 方の改善		が適当					`					皆減	縮	小	現状維持	拡大
		羽容・主体 ・休廃止の		検討				•	•						コスト	投入	の方向性	
D:事業の統合・休廃止の検討 ・収蔵品、資料の保管について、収蔵庫の未整理の標本や資材等の整理を少しずつ進めて、わずかな作業スペースを確保したが、収蔵庫、作業スペースが狭いという課題は残っている。 ・標本の同定、データベース化を新たに予算化し、データの一部公開に向けた作業を少しずつ進めている。																		
	き開始(が経過)												する方向性が 場所や事業の					

ケ月が経過し新た に生じた問題等 ・専門的知識を有する職員が不在である。

新年度の予算要求 事項(改革・改善案)

・公園再整備に伴う展示資料の移転・保管・公開について、将来的なハード・ソフト両面での検討が急務となっている。
・自然に関わる事業の実施や来館者のニーズに対応するためには、専門的知識を有する職員が配置されていることが必要と感じる。・収蔵標本のデータベース化については、今年度より専門知識のある作業員2名に委託して実施しているが、当初想定していたより1件の処理作業に時間がかかることが分かったため、新年度は予算の増額を求めたい。

·R3年7月から休館となるため、会計年度任用職員(旧臨時·13日勤務)1名分については、減額とする。 ·標本同定作業等委託料と有害生物駆除委託料、紀要印刷については増額を認める。 第1次評価コメント

第2次評価コメント

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、休館等の影響はあったが、感染予防対策を講じて自然博物館の運営を行った。特別企画展は計画どおり5回開催できたが、自然科学講座は1回(2回予定)、自然観察会は3回(5回予定)の中止となった。 ・収蔵標本のデータベース化及び国立科学博物館が主管するサイエンスミュージアムネットへの登録申請を行った。
成果	 ・前年と比較して入館者数は減少したが、目標値を上回ることができた。(前年比22%減は前年度の花フェスタ入館者の影響もある) ・国立科学博物館が主管するサイエンスミュージアムネットに3,045件の登録を行うことができ、生物標本に関するデータバンクとしてネット上で全世界へ発信された。
課題	・収蔵標本のデータベース化は、収蔵標本が約55,000点あることから継続的な取り組みが必要である。 ・小坂田公園再整備に伴う博物館の移転先及び今後のあり方についてハード・ソフト両面での方向性の決定が急務である。 ・貴重な資料の収集・保管、調査・研究、展示及び教育普及・学習支援といった博物館の使命を果たすには、専門知識を持たない会計 年度任用職員のみが配置されている現状では、博物館としてのニーズに十分に応えることができない。自然系の知識のある学芸員な ど専門性をもった職員の継続した雇用・配置が必要である。

作成担当者	生涯学習部	文化財課		文化財係	職名	主事	氏名	櫻山 博史	連絡先	(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	Ē.	氏名	中村 琴	江	担当係長	•	文化財係長	氏名	塩	温原 真樹

〇実施計画

틕	事務事	業名	市民ス	ポーツ振	興事	業						担当課		ス	ポーツ推	進課	
F	目的	対象:	スポー	ソをする	市民									1	本系	4-2	2-3
	נים ב	意図:	市民の	体力づく	り、生	きがい	づくり							亲	斤/継	継	続
	手戶	近.	フポー\	ツイベン	しか#	安の問	/出							[区分	ソ	フト
	7-6	又.	ヘホー	ノイベン	下一个实	主の用	TE							1	会計	_	般
					平成3	0年度				令和为	元年度				令和2年	度	
				-ツ教室の					一ツ教室の					ーツ教室の			
	年度	₹別	00-1	レース事	業			00-	ドレース事	業				ドレース事 山雅フェス			
	事業												し松本	山雅ノエヘ	ナイハル		
			決算額	(A)		(千円)	2,059	決算額	(A)		(千円)	1,831	決算額	(A)	(Ŧ	円)	751
			スポー	ツ教室等	講師	射礼	50	スポー	ツ教室等	詳講師	射礼	40	スポー	ツ振興事	業負担金	È	0
				ツ振興事					ツ振興事					フェスティバルi			500
	事業	養	その他				•	その他		7122		-,	その他				251
	•財	源	(0)				100	(0)	•			200	C 07 E	•			201
			特定		1.232	一般	827	特定		1.077	一般	754	特定		0 -	-般	751
	I — 4				-,					.,					_		
人	`	現職員	業務量	1.07	人	人件費	7,212	業務量	0.98	人	人件費	6,680	業務量	0.32		件費	2,116
件	. —	託員	業務量	0.04	人	人件費	118	業務量	0.04	人	人件費	110		0.00	- ' '	件費	0
費		合計		人件費合			7,330		人件費台			6,789		人件費合			2,116
틕	事業費	合計	事	業費合計	†(A)+((B)	9,389	事	業費合詞	†(A)+((B)	8,620	事		2,867		
部	平価指:	標1単	=π / =	工+比+而/口	7 / H	八 、	7 170	= 17.7	エ+ヒ+亜 / ロ	пиж	<i>I</i> ±\	E 400	=π <i>l</i> :	エ+比+価 / FT	1 /光/上)		
		リコスト	高半10 	5指標(P	1/ 単	1쏘)	7,173	高半1 	西指標(F	サ/ 単	1보)	5,466	言 半 1	西指標(円	/ 単14)		

〇評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
塩尻ぶどうの郷ロードレースエントリー数	1,309	1,309	2,000	1,577	1,577	2,000	0	0	
各種スポーツ教室の参加人数	0	61	80	0	74	100	0	0	

〇事中評価

					評価	視点								今往	後の方向!	ŧ	
	妥当	当性			有刻	 沙性			効≅	率性		成	拡充		4	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	⑤	
低い	南からさ	やや 高い	高い	低い	南市でった	やや 高い	高い	低い	やや低い	やや 高い	高い	方向	縮小		⑥ レ		
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7			
B:事業の進め方の改善の検討											拡大						
	C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討																
	前年度の課題等に 対する取組状況 ・(仮称)塩尻ロードレース検討委員会を設置し、これまでの経過説明を行い、ロードレースの廃止について検討を行った。																
6ヶ月7	度開始復 が経過し じた問題	し新た	し、ロー 広丘地 の猶予	ドレース 区からは を設けて	の廃止 は、開催 議論す	についっ に反対す ることと	で検討を る意見。 なった。	行ったか が強い。	、委員 令和3年	からは継 F度も新	続を希! 型コロナ	望すーウィ	る意見もあっ	った。ただし。 を受けること	、ロードレー	−ス検討委員 −スのコースと れるため、今	なっている
	度の予算 改革・改		・ロードレースについては、来年度も新型コロナウイルスの影響を受けることが予想されるため、大学施設や地域住民から理解をいただけない可能性があることを考えると、休止期間として検討に時間をかけることが妥当と考える。														
第1次	マ評価コ	メント	・ロード	コードレースについては、松本マラソン等と広域的に重複しないように議論を続けること。													
第2次	マ評価コ	メント									_						

〇字核計画	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・スポーツ教室は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催ができなかった。 ・第12回ロードレース大会(R2年度)は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 ・松本山雅フェスティバルは、新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小して県内の8チームが参加し開催した。
成果	・松本山雅フェスティバルは、試合後、希望者が市内のブドウ園でブドウ狩りを楽しみ観光振興を図ることができた。
課題	・コロナ禍におけるスポーツ教室の開催方法を検討する。 ・ロードレースについては、廃止をする総意が関係者全員から取れていないため、検討委員会での協議を進める。

作成担当者	生涯学習部 社会教育スプ	ペーツ課 ス	ペポーツ推進係	職名	係長	氏名	長島 峰行	連絡先	(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高	秋	担当係長	ス7	ポーツ推進係長	氏名	長	島 峰行

〇実施計画

事	务事業:	名	競技力	向上事業	集							担当課		7	スポーツ	/推進課	<u> </u>
目目	, 対象	象:	スポー	ツをする	市民										体系		4-2-3
	意图	ℤ :	市民の	体力づく	り、生	きがいつ	づくり								新/継		継続
	手段:		+ R #	本包生 /	n+△	明准禾	託、活動補助:	<u></u>	/ +						区分		ソフト
	丁 权:		甲氏体	月分寺0	リ人云	用惟安	武、冯别州助:	並の文章	ניו						会計		一般
					平成3	0年度				令和元	年度				令和:	2年度	
	∓度別 業内容	ř		振興事業 体育振興 補助					振興事業 体育振興 補助	事業				振興事第 体育振與 補助			
			決算額	(A)		(千円)	21,175	決算額	(A)		(千円)	20,102	決算額	(A)		(千円)	14,129
			体育振	興事業委	委託料	ŀ	6,084	体育振	興事業委	6,084	体育振	興事業	3,190				
-	事業費		地区体	育振興事	事業委	託料	4,818	地区体	育振興事	業委	託料	4,818	地区体	育振興	事業委	託料	1,669
	₽未复 •財源		会場使	用料			19	会場使	用料			29	会場使	用料			0
	741 W.V		体育協	会活動ネ	補助金	:	10,254	体育協	会活動補	助金		9,171	体育協	会活動	補助金	:	9,270
			特定		0	一般	21,175	特定		0	一般	20,102	特定		0	一般	14,129
人	正規職	員	業務量	0.22	人	人件費	1,483	業務量	0.22	人	人件費	1,500	業務量	0.10	人	人件費	661
件	嘱託員	Į	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0
費	合計			人件費合	\$計(B)	1,483	3 人件費合計(B)						人件費·	合計(B))	661
事	業費合語	計	事	業費合計	†(A)+((B)	22,658	58 事業費合計(A)+(B)				21,602	事	業費合	計(A)+((B)	14,790
	5指標1.		評価	西指標(P	9/単	位)	8,632	評值	西指標(円	立)	8,001	評値	西指標(円/単	位)	32,083	

〇評価指標

	:	平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
市民体育祭参加者数	2,600	2,625	3,400	2,600	2,700	3,400	364	461	3,400

○事中評価

					評価	視点								今往	後の方向性	Ē	
	妥当	当性			有刻))性			効≅	率性		成	拡充		4	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3 V	5	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やい	高い	方向	縮小		6		
		総合評	価判定					総合	·評価			性	休廃止	7			
		:事業を追 ちの改善		が適当					`					皆減	縮小	現状維持	拡大
	C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討																
	前年度の課題等に 対する取組状況 ・												続する予定				
6ヶ月7	当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た に生じた問題等・塩尻市民水泳大会については、コロナウイルスの影響で中止になった。 ・塩尻市民体育祭はコロナウイルスの影響で現時点までに実施したのは5競技となり、昨年より大幅に参加人数も減少している。																
	新年度の予算要求 事項(改革・改善案) ・市民体育祭については、コロナ禍により中止となったことで参加者が減る可能性があり、参加者を減らさないための周知、運営方法 や参加資格等の再検討について体育協会と協議したい。 ・水泳大会は役員不足の為、計測器を使用したいが、計器を導入した場合、技術員の賃金等の予算計上が必要。																

第1次評価コメント ・水泳大会については、近隣市等との共同開催を検討し、市職員が直接携わることなく実施できる方法を検討すること。 第2次評価コメント —

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・塩尻市民水泳大会は新型コロナウイルス感染症の影響により、更衣室や、選手待機所で3密が防げないこと、声援が送れないことから中止とした。 ・塩尻市民体育祭は5つの競技を実施した。
成果	・塩尻市民体育祭は中止となる競技が多かったが、各競技部で新型コロナウイルス感染症防止対策をした上で実施する競技もあり、スポーツを行う機会を提供できた。
課題	・コロナ禍の中、密にならないよう規模を縮小して行うなど、各種大会が開催できるよう検討していく必要がある。 ・水泳大会を通常開催する場合はスイミングスクールに通っている児童、生徒以外の市民に参加してもらうため、周知方法や募集要項 の改善が必要である。 ・コロナ禍でもスポーツができる環境を提供していく必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ	課ス	ポーツ推進係	職名	主事	氏名	伊藤 めぐ	連絡先	(内線)	3122
最終評価者	社会教育:	スポーツ課長	氏名	田下 高標	阦	担当係長	スァ	ポーツ推進係長	氏名	₽	島 峰行

〇実施計画

事	務事業名	体	育施	設管理道	軍営事	業						Ŧ	担当課			スポー	ツ推進記	果	
目的	」 対象	: ス7	ᢤ—`;	ソをする	市民											体系		4-2-3	
H	意図	: 市月	その	体力づく	り、生	きがい	づくり									新/継	<u> </u>	継続	
	手段:	7-	۰_۰	いたモルク	なる。	+> %任 +土 A	管理による利用	日の担当	<u> </u>							区分		ソフト	
	十段:	^_	\ —'.	ノ心設り	ノ心正・	(4) 不正行する	当年による利用	日のル地	Ē							会計		一般	
					平成3	0年度				令和え	年度					令和	12年度		
	丰度別			施設の管					施設の管					〇体育					
事	業内容			k費等の a a a 品等の		賞			水費等の 備品等の		賀			〇光熱:			全質		
		O'll	U DZ III	非四寸の	文利			つ 心 改	帰四寺の.	文 利				○ 心心 改	用四寸(の文利			
		決算	草額 ((A)		(千円)	35,135	決算額	(A)		(千円)	3	9,886	決算額	(A)		(千円)		40,398
		体育	育施:	設管理委	委託料	Ļ	13,473	体育施	設管理委	き託料		1	3,858	体育施	設管理	基委託 料	4		13,335
	- ** #	光熱	水水	費			13,907	光熱水	費			1	3,624	光熱水	.費				11,636
	事業費 •財源	保守	宁点	検等委託	托料		2,015	公共施設	予約システム	保守点	负委託料		1,972	公共施設	予約システ	テム保守に	点検委託料		4,072
	7/1///	営約	善修	繕料			867	予約シ	ステム等	使用制	料		1,031	予約シ	ステム	等使用	料		862
		70)他				4,873	その他	ļ.				9,401	その他					10,493
		特	定	1	2,225	一般	22,910	特定	1	2,326	一般	2	7,560	特定		10,741	一般		29,657
人	正規職員	美	务量	0.54	人	人件費	3,640	業務量	0.54	人	人件費		3,681	業務量	0.58	人	人件費		3,834
件	嘱託員	業利	新 量	0.70	人	人件費	2,071	業務量	0.60	人	人件費		1,644	業務量	0.00	人	人件費		0
費	合計		,	人件費合	計(B)	5,711		人件費合	計(B)			5,325		人件費	合計(E	3)		3,834
事	業費合計	F	事業費合計(A)+(B) 40,8						46 事業費合計(A)+(B)					事	業費合	ì計(A)⊦	⊦(B)		44,232
	5指標1単 はたりコス							9 評価指標(円/単位)					237	7 評価指標(円/単位)					357

〇評価指標

		平成30年度	Ę	•	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
体育施設の利用者数(学校体育施設を除く)	101,338	205,549	210,000	102,083	190,889	210,000	30,620	123,924	210,000

○事中評価

○争中	D事中評価 評価視点 今後の方向性																	
					評価	視点								今	後のブ	方向性	į.	
	妥当	当性			有刻	 沙性			効≅	뚇性		成	拡充		4	レ	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3		5	
低い	やや 低い	単いった	高い	低い	やや 低い	事で	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6			
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7				
B:事業	の進め	事業を通	の検討)					皆減	縮	小	現状維持	拡大
]容・主体 ・休廃止の		検討					,						コス	ト投入	の方向性	
が年度の課題等に対する取組状況 ・利用者が安心、安全にスポーツに取り組めるよう体育協会やシルバー人材センターへ施設の管理業務を委託した。・公共予約システムの不具合を防止するため引き続きシステム保守点検業者とクラウド使用の契約を締結した。・利用者が安心して使用できるよう施設内に大量発生した蛾の駆除を行った。																		
・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、体育施設を閉館することとなり昨年より利用者が減少した。緊急時等の利用者への周知方法を研究する必要がある。 ・利用者登録、使用料の支払い、施設予約など窓口対応を削減させる対策の整った公共施設予約システムを新たに構築する必要があり、本年9月議会へ補正予算を上程した。 ・主生じた問題等 ・活生じた問題等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・														必要があ				
	度の予算 改革・改		い。 ·施設療	女地内に	植栽した	☆樹木に	ついては	t、成長	を抑える	剪定やる	数を減	らす	いて老朽化 伐採を計画 の保守点検	的に行って	いく必	要があ		対応が厳し
第1次	(評価コ	メント	Shioci		進事業	として提	案があっ	た公共	施設マネ				導入は、施設 事項とする。	と情報のシス	ステム・	への登	録に手間が	かかる等課
第2次	第2次評価コメント ー																	
○市※																		

〇 子 及 们 區	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・老朽化した体育施設が多い中、利用者が安全に安心してスポーツに取り組めるよう5施設10箇所の修繕を行った。 ・体育協会やシルバー人材センターへ施設の管理業務を委託した他、体育施設予約システム保守点検委託などを行った。 ・施設を巡回する職員と常時利用者と接することの多い受付員と連携を密にし、施設に不具合等があった際の連絡を徹底した。 ・体育施設付近の住民から、落ち葉等の苦情が寄せられているため、樹木の剪定や伐採、害虫駆除を行い、適正な環境整備に努めた。
成果	・日常的な管理や環境整備を行うことにより、利用に支障のない環境を整えた。
課題	・施設の老朽化が著しいため、公共事業の長寿命化計画に基づき大規模改修が必要である。 ・体育施設の立木が成長し、落ち葉や枯れ枝により弊害を及ぼしている。計画的に間引きするなど本数を減らしていく必要がある。 ・「イラガ」や「マイマイガ」が大量発生し、駆除や卵の除去などの対応が新たに必要となっている。

作成担当者	生涯学習部 社会教育スポーツ	/課 ス	ポーツ推進係	職名	係長	氏名	長島 峰行	連絡先	(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高利	火	担当係長	スァ	ポーツ推進係長	氏名	長島	,峰行

〇実施計画

事	務事:	業名	総合体	育館建訂	ひ事業 しんりん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん か							担当課		新体育	育館建語	没プロジ	ジェクト
	的文	対象:	市民												体系		4-2-3
	in) [意図:	市民の	推もが多	心して	てスポー	-ツに親しめ、	新たな交	を流の場の	となる	環境を	整備する。			新/継		継続
	手段	١.	新体育的	空の2曲=	л										区分		ハード
	于权	4.	机冲用	店の姓品	Z										会計		一般
					平成3	0年度				令和え	定年度				令和:	2年度	
Infi	年度》 事業内	別	〇測量詞 〇基本語 〇CM委訂	計	〇実	相地買収 整施設計 2約約款・	作成	〇移転社 〇建設: 〇施設:	工事	ΟI	施設計 事監理 【委託		〇建設 〇工事 〇CM委 〇外構 【R2か 【事業	き理 託 エ事 ら繰越コ	〇旅	、園整備 起負担 請品購入 五】	
			決算額(A)		(千円)	197,117	決算額	(A)		(千円)	636,213	決算額	(A)		(千円)	2,421,562
			用地取行	导費			135,569	CM委託	ŧ			21,071	建設工	事			1,682,406
			基本設定	†			4,666	工事請	負費			600,912	備品購	入費			150,149
	事業:		工事請負	負費			20,952	下水道	受益者負	担金		8,647	CM委託	ŧ			16,297
	- HJ W		CM委託				32,108	支障物	件移転裤	甫償費		2,198	その他				6,682
			その他				3,823	その他	諸経費			3,385	工事費	(R2から	ら繰越)		566,028
			特定	18	1,100	一般	16,017	特定	60	1,349	一般	34,864	特定	2,2	00,038	一般	221,524
人	正規	職員	業務量	1.41	人	人件費	9,503	業務量	1.41	人	人件費	9,611	業務量	1.31	人	人件費	8,660
件	嘱言	托員	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0
費	合	計)	人件費合	計(B))	9,503		人件費合	計(B))	9,611		人件費	合計(B)	8,660
事	業費	合計	事美	業費合計	†(A)+((B)	206,620	事	業費合計	†(A)+(B)	645,824	事	業費合	計(A)+((B)	2,430,222
	価指標 当たり:		評価	指標(P	一一	位)	3,689,650	評価	5指標(円	一	位)	6,458,236	評個	插指標(円/単	.位)	_

○評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
実施設計出来高(%)	0	56	48	100	100	100	-	-	-
建築工事出来高(%)	-	-	-	-	34.5	20.0	70.0	100.0	100.0

〇事中評価

O TT	шш																
	評価視点													今往	後の方向性		
	妥当	当性			有交	沙性			効≅	率性		成果	拡充		4	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3 4			現状維持		3	⑤	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い 低い 低い もや 高い 高い						方向	縮小		6		
		総合評	価判定	2		総合評価						性	休廃止	⑦ レ			
		事業を追 方の改善		≤が適当					Λ.					皆減	縮小	現状維持	拡大
	::事業規模・内容・主体の見直し検討 ::事業の統合・休廃止の検討								•						コスト投入	の方向性	
前午日	・新型コロナウイルスにより調達に不測の事態が起こる可能性があるため外構工事及び備品購入等の発注を当初計画より前倒しで発																

- 前年度の課題等に 対する取組状況 ・CMと連携を密にとり、コストの上振れが無いように調整を進めている。 ・市民への期待感を醸成するため、ホームページに最新情報を掲載し、動画配信も積極的に活用し周知に努めている。

当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た に生じた問題等 ・新型コロナウイルスの終息が見えず、資材調達への影響及び現場での新型コロナ感染の不安等工事竣工まで予断を許さない状況 となっている。また、市民への情報発信として計画していた現場見学会も中止とすることも検討しなければならなくなっている。

新年度の予算要求 事項(改革・改善案)

第2次評価コメント

・令和2年度で事業完結

第1次評価コメント ・令和2年度事業完了

区分	年間(4月~3月)
	・付帯工事及び備品発注を前倒しで進め、当初計画どおり竣工することができた。見学会は新型コロナウイルス感染症の影響で市が広く募集する見学会は開催できなかったが、少人数の見学会の受け入れは実施した。見学会が開催できないので、工事状況を積極的にホームページ、YouTubeで発信した。
	・スケジュール及び事業費について当初計画内で竣工することができた。また、積極的な広報により、市内外に総合体育館をアピールすることができた。 ・本市で初めてとなる施設の命名権を早期に決定することができた。
課題	・開館した総合体育館を有効活用し、市民をはじめとしたスポーツ人口の増加、施設利用促進を目指す取り組みが必要である。

作成担当者	生涯学習部 社会教育ス	ポーツ課	スポーツ推進係	職名	係長	氏名	長島 峰行	連絡先	:(内線) 3120	
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下高	秋	担当係長	スァ	ポーツ推進係長	氏名	長島 峰行	

〇実施計画

事	務事業	名	総合体	育館運営	事業							担当記	R	ス	ポーツ	ノ推進課	ŧ	
目的	45 対	象:	施設を	利用する	市民										体系		4-2-3	
н	意 意	図:	施設の	稼働率の)向上	及び利	用者の満足度	の向上	を図る。					3	新/継		新規	
	手段:		四台/一	白けた進	進の	宇佐 6	民間事業者に。	トスが攻	かかか	田油品	,				区分		ソフト	
	十 权:		用品に	円リバン学	- 1)用 () /	天心、「	ス川尹未行に	トの刈台	こいな 日立	主理呂	1				会計		一般	
				3	平成3	0年度				令和え	元年度				令和2	2年度		
	年度別 業内容													準備業務 の指定管				
			決算額	(A)		(千円)		決算額	(A)		(千円)		決算額	(A)		(千円)		14,854
													開館準	備業務	委託料			9,600
_	± 444 ##												光熱水	費				4,007
	事業費 •財源												記念品	代				616
	- 只/ //示												警備委	託料				55
													その他	Į.				576
			特定			一般		特定			一般		特定		0	一般	•	14,854
人	正規聙	競員	業務量	0.35	人	人件費	2,359	業務量	0.35	人	人件費	2,38	業務量	0.82	人	人件費		5,421
件	嘱託.	員	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費		業務量	0.00	人	人件費		0
費	合計	†		人件費合	計(B))	2,359		人件費合	計(B))	2,38	ĵ .	人件費合	計(B))		5,421
事	業費合	計	事:	業費合計	(A)+(B)	2,359	事	業費合計	†(A)+((B)	2,38	事	業費合語	†(A)+((B)	2	20,275
	西指標1 もたりコ		評価	5指標(F]/単	位)		評値	西指標(円	一	位)		評値	五指標(P	月/単	位)	20,2	75,020

〇評価指標

		平成30年度	Ę	•	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
指定管理者の決定	_	-	1	1	1	1	1	1	1
									·

〇事中評価

					評価	視点								今往	後の方向性					
	妥铂	当性			有效)性			効≅	뚇性		成	拡充		4	2	1	レ		
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	5				
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やいる	益	低い	やや 低い	やいる	高い	方向	縮小		6					
		総合評	価判定	!				総合	評価			性	休廃止	7						
	iどおりに tの進め		生めること の検討	が適当										皆減	皆減 縮小 現状維持 拡大					
	●規模・内 ●の統合・		の見直し の検討	検討				,	4						コスト投入の方向性					
	度の課題 る取組		・指定管	管理者が	決定し、	開館に	向けた打	「ち合わ	せにより	課題等	を確認し	ノ開館	館に向け準値	帯を進めてし	まを進めている。					
6ヶ月	度開始復 が経過 じた問	し新た	るプロ 7 がある	ピーザル ため、実	となった 施方法	。今回(等の見道	は緊急的 しをする	な対応	としてオ ある。	ンライン	で実施し	したさ	こ。新型コロフ が、今後もオ いラインに実	ンラインに。	よるプロポー	Ŀの為、オン・ ·ザルを実施・	ラインに する可	こよ 能性		
	度の予算 改革・改		•総合体	本育館の	開館に	句けイベ	ントのは	容、時	期を明確	#にして ³	予算計上	上する	る必要がある	。現在、指	定管理者と	劦議検討中。				
第1次	な評価コ	メント	方法を ・命名権	再検討す 権料は、	トること。 当初のう	を定どお	り、総合	体育館	の指定管	管理料に	全額充	当す				きを実施する	など、閉	昇催		
第2次	マ評価コ	メント	・総合体 実施す		開館式	典とイベ	ント計画	iについ [・]	ては、開	館初年	度は提奨	案どる	おりの実施を	₹認める。令	和4年度以降	条は実施規 植	莫を縮り	し		

〇争该計 個	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・プロポーザルにより指定管理業者が決定し、開館に向け毎月1回の定例会を行った。 ・課題確認シートを作成し、建設や運営における課題、問題点をそれぞれの入力(最終課題132件)し、定例会時に課題解決に向け協議を行った。 ・定例会以外で協議が必要になった場合は、オンラインにより協議を行った。
成果	・開館に向け課題、問題点をシートで明確化したことにより、浮き彫りになった課題、問題点を共有し、解決することができた。
課題	・運営していく中で、今後も課題、問題点が発生する可能性があるため、定期的な打合せをしていく必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ	課ス	ポーツ推進係	職名	係長	氏名	長島 峰行	連絡先	(内線) 3120
最終評価者	社会教育ス	ペポーツ課長	氏名	田下 高精	阦	担当係長	スオ	ペーツ推進係長	氏名	長島 峰行

令和2年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	С	シニアが生き生きと活躍できる地域の創造
重点プロジェクト	7	生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築
施策	2	生涯を通じた学びと知識や経験の継承
		皆をはじめ、自発的に活動する意欲を持った市民に対して、生涯を通じた学び合いの場や文化芸術に触れる機会を提供すること 民個人の豊かな生活の創造と地域活動の活性化を促進します。

2 施策の指標における成果

		単	基準値		達成値		目標値
	担保	位	本华世	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度
統計	公民館の来館者数	人	228,120[H28]	213,387	210,356	101,133	230,000
गरहा	芸術文化事業参加団体数	団体	160 [H28]	160	160	160	175
市民	図書館や公民館などの利用環境が整っていると感じる市民の割合	%	69.9 [H29]	70.9	77.0	70.8	70.0
市民	音楽や文学、芸術活動に触れたり参加したりする機会に恵まれていると 感じる市民の割合	%	42.4 [H29]	37.3	38.7	33.6	43.0

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

	取り組み①	生涯学習環境の充実								
	手段	市民が生涯学習を通じて、	生きがいを持	ち、豊かな生	活を送れるよ	うに、学習拠点	ことなる社会教	て育施設の環境	竟整備を推進し	、 ます。
番号	佐竿去樓口		担当課		事業費		重点化		方向性	
钳万	ル東で構造	以りる事物争未有	担当床	平成30年度	令和元年度	令和2年度	里从心	成果	コスト	記号
1	生涯学習支援事業		社会教育課	3,538	4,851	2,414		現状維持	現状維持	5
2	総合文化センター管	理事業(施設改修)	社会教育課	28,242	17,393	1		拡充	拡大	1
3	公民館事業		社会教育課	38,574	38,293	41,909	0	拡充	現状維持	2
4	公民館分館施設整	備事業	社会教育課	1,000	6,750	5,855	0	拡充	縮小	4

	取り組み②	文化芸術活動の支援								
	手段	市民が、多様な文化芸術を身	近に接すること	ができるよう、こ	文化会館の改修	や市民ニーズ	に応じた事業の	企画、文化芸術	析活動を行って	いきます。
番号	佐竿た様に		担当課		事業費		方向性			
钳万	心束で情点	以りる事務争未有	担当床	平成30年度	令和元年度	令和2年度	重点化	成果	コスト	記号
1	芸術文化事業		社会教育課	4,481	3,328	1,522		現状維持	縮小	3
2	文化会館運営事業		社会教育課	137,000	134,350	134,677		現状維持	現状維持	(5)
3	文化会館改修事業		社会教育課	62,694	14,256	9,130		拡充	拡大	1

4 施策の評価

〇事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・社会の変化やニーズに対応した学習機会と場を提供していく必要があるので、乳幼児から高齢者までがともに学べる環境を整備していく。 ・生涯学習の推進には、これまでのような公民館、博物館、図書館といった区切りではなく、それぞれの特徴がまじりあう取り組みを推進していく。
(2) 事業の重点化	・総合文化センター及び文化会館は、建築から相当数の年数が経過していることから、施設・設備等を長期的な視点に立ち、適切な時期に修繕を行うなど、年次計画的な改修が必要である。 ・昨年7月に開館した北部交流センター「えんてらす」は、新型コロナウイルス感染症によりこの春~初夏にかけ利用が落ち込んだが、1年間の利用者合計では、当初予想した来館者より3万人多い状況である。最近の来館者数は復調気味である。公民館・図書館・北部子育て支援センターとの連携事業による生涯学習の取り組みを進める。 ・文化会館は、経年劣化により多岐にわたり営繕修繕箇所が発生しているので年次的に工事を実施していく必要がある。ホール天井の耐震化が未実施であるので、早急に改修できるよう関係部署と調整していく。
(3) 役割分担の妥当性	・生涯学習の拠点として、地区公民館の果たす役割は今後ますます重要となるので、職員(公民館主事)の意識改革と地域住民等との連携強化を推進していく。 ・社会教育において公民館を拠点として「地域課題解決学習」の取組を進め、社会の変化に対応した学習機会を提供していくためには大学、企業等の多様な主体と連携・協働し、各主体の強みを活かした取組を進めていくことが求められる。

(4) 施策指標の要因分析	・「公民館の来館者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり大きく減少した。また、高齢化によるサークル等の廃止が一因と考える。 ・「図書館や公民館などの利用環境が整っていると感じる市民の割合」や「音楽や文学、芸術活動に触れたり参加したりする機会に恵まれていると感じる市民の割合」についても、新型コロナウイルス感染症の影響により利用制限や活動停止の影響が大きいものと考える。
(5) 施策の定性評価	・社会情勢の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により地域コミュニティーが大きく変革しつつあると感じる。 ・地区の運動会や文化祭などの行事中止が一過性のものでコロナ後に何らかの形で復活し、公民館を地域の核としてコミュニティーの形成が図られるよう継続的な取り組みが重要となる。

評価者	所属	生涯学習	職名	部長	氏名	胡桃 慶三	
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名 田下	高秋			

〇実施計画

事	務事	業名	生涯学	習支援事	業							担当課			社会教	教育課		
目	65	対象:	市民									·			体系		7-2-1	
	נים	意図:	生涯学	習のため	の環	境と機会	会を提供する。								新/継		継続	
	手段	ات.	タケル	にはいた	半羽	継合のt	是供及び情報	& 信のす	₽tc						区分		ソフト	
	T F2	Χ.	台中ル	トルした	子白1	成去りた	定法及び情報	七1日リフラ	∈心						会計		一般	
					平成3	0年度			4	令和え	年度				令和:	2年度		
	年度		○学び	教育委員(の道「小さ 型社会教育	な旅」	温故知	新の旅」事業	○学び	教育委員の の道「小さな 大学事業	な旅」	温故知	新の旅」事業		教育委員 ン大学事:				
			決算額		3 TU	(千円)	•	決算額		- T-111	(千円)	•	決算額		to Till	(千円)		2,414
				育委員報				社会教育委員報酬					社会教育委員報酬					134
	事業	貝		育指導員		等	•		育指導員		-	•	社会教育指導員報酬等					143
	·財	源	その他	事務諸紹	費		1,584		大学事業		註	•	6 ロマン大学事業補助金					550
								その他	事務諸経	費		1,679	その他	事務諸	径 費			1,587
			特定		63	一般	3,475	特定		84	一般	4,767	特定		35	一般		2,379
人	正規	見職員	業務量	0.24	人	人件費	1,618	業務量	0.78	人	人件費	5,316	業務量	0.83	人	人件費		5,487
件	嘱	託員	業務量	0.56	人	人件費	1,656	業務量	0.56	人	人件費	1,534	業務量	0.00	人	人件費		0
費	쉳	信		人件費合	計(B))	3,274	人件費合計(B)				6,851		人件費包	合計(B €)		5,487
事	業費	合計	事	業費合計	├(A)+(B)	6,812	2 事業費合計(A)+(B)				11,702	事	業費合	計(A)+((B)		7,901
		標1単 リコスト	評価	指標(円]/単	位)	70,958	評価指標(円/単位)				130,021	評個	古指標(F	円/単	位)		

〇評価指標

	:	平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
学びの道「小さな旅」「温故知新の旅」参加者の満足度(%)	93.5	96.0	90.0	89.0	92.6	90.0	-	-	90.0
市民の市が実施する生涯学習推進講座等の取り組みに対する認識率(%)	36.7	34.3	45.0	35.0	26.7	45.0	26.7	24.8	45.0

○事中評価

					評価	視点					今往	後の方向性					
	妥当	当性			有刻	沙性			効平	率性		成	拡充		4	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	5 V	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やい	やや 高い	高い	方向	縮小		6		
総合評価判定総合評価												性	休廃止	7			
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討														皆減	縮小	現状維持	拡大
B: 争乗の進め方の改善の検討 C: 事業別模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討															コスト投力	の方向性	
	度の課題 る取組)道「小さ ラムに組						当及び参	加者の	年齢	冷層が固定化	されていた	ため、当年原	度よりロマン:	大学の学習
6ヶ月:	度開始復 が経過∪ :じた問	し新た		大学につ		:、新型=	ロナウ	イルス感	染症対:	策で移動	時の密	を防	うぐため野外	講義を中止	し、上記課題	頃の取り組み	を実施す
	度の予算 改革・改		沿った。	学習プロ	グラムヤ て、地域	5広報等 への還	の充実 元を目的	を図る。								連携しつつ、	
第1次	マ評価コメント・提案のとおり。																
第2次	第2次評価コメント 一																

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・ロマン大学では、生涯学習の一環として社会参加へのきっかけづくりを提供する学習プログラムを実施するとともに、受講者のアンケート結果を学習プログラムに反映させることで、内容の充実を図った。
成果	・ロマン大学は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。
課題	・学びの道「小さな旅」「温故知新の旅」について、参加者及び参加者の年齢層が固定化されていたため、当年度よりロマン大学の学習プログラムに組み入れて実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染症対策でバス移動時の密を防ぐため野外講義を中止したため、実施することができなかった。 ・ロマン大学については、再入学の希望も多く、減少傾向に歯止めがかかってきている。野外講座への期待が高いため、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの講座開催方法の検討が必要。

作成担当者	生涯学習部 社会教育スポー	ツ課	社会教育係	職名	係長·主事	氏名	大塩·山端	連絡先	(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高標	阦	担当係長	†	土会教育係長	氏名	ナ	塩 弘嗣

〇実施計画

								総合文化センター管理事業(施設改								
	土会教育課	社会教		担当課			(施設改修)	里事業(一管理	化センタ	総合文	事業名	事務事			
2-1	本系	体系						用者	一利月	化センタ	総合文	対象:	目的			
続	ŕ/継	新/継					を確保する。	の拠点	習活動	生涯学習	快適な	意図:	נים 🗀			
ード	≤分	区分					lukt	# 0.75	7. 4 °=0.	+>+ /- =π. т	=1 := : 45	ᄠᄱ	-			
般	注 計	会計					11分	順の欧	又ひ設	な施設及	計画的	段:	于.			
	令和2年度	令和			令和元年度			0年度	平成3							
					レ改修工事	Oトイレ		Į.	修工事	棟屋根改	〇中央	度別	在 5			
					卜喫煙所設置工事	〇屋外		工事		アプローラ		内容				
									工事	入口舗装	〇北側.					
_	(千円)	ξ(A)	決算額	17 393	額(A) (千円)	決算額	28 242	決算額 (千円) 28,24								
			77 JI II	9,900	改修工事											
				5,832	ダブーチ 契煙所設置工事		·		-	チ改修工事及						
				567	实	0,040	- un-1x		/ 4/9=+4	20077	業費					
												才源	- 則			
				1,094	機器改修工事	高上機										
	4-		41			41-4-		4-			41					
	一般		特定	7,993	9,400 一般	特定	9,142	一般	9,100	1	特定					
0	人人件費	人	業務量	1,704	1 0.25 人 人件費	業務量	1,685	人件費	人	0.25	業務量	規職員	人 正			
0	D 業務量 人 人件費			0	0.00 人 人件費	業務量	0	0.00 人 人件費				属託員				
0	4 人件費合計(B)			1,704	人件費合計(B)	1,685	人件費合計(B) 1,6				合計	費				
	(A)+(B)	業費合計(A)+(事	19,097	事業費合計(A)+(B)	29,927	事業費合計(A)+(B) 29,92				費合計	事業領				
							標1単				評価指					
	250 評価指標(円/単位)			4,774,250	価指標(円/単位)											
	計(B) (A)+(B)	業費合計(A)+(事	1,704	人件費合計(B)	事	1,685	事業費合計 事業費合計(A)+(B) 29,9					事業預評価指			

〇評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度		
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	
改修工事実施数	0	3	3	1	4	2	_	-	I	

〇事中評価

OŦT	J 争中計画																	
					評価	視点								今往	後の方向性 かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん			
	妥旨	当性			有刻	沙性			効率	率性		成	拡充		4	2	1	レ
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	(5)		
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	さら	高い	方向	縮小		6			
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7				
		:事業を追 方の改善		が適当				•	`					皆減	縮小	現状維持	拉	大
C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討																		
前年度 対す	₹の課題 る取組		・施設の老朽化と市民ニーズの両面から、改修が必要な箇所の検討を行っている。															
6ヶ月だ	度開始(が経過) じた問	し新た	・新設し	新設した屋外喫煙所の管理、改修について、今後の方針を庁内で協議していく必要がある。														
新年度			・生涯学習の拠点施設として、幅広く利用されている施設であることから、施設の老朽化と市民ニーズの両面から計画的に改修工事を 実施する必要がある。															
第1次	評価コ	・R3年度の総合文化センター講堂のスイッチ化工事は実施を認める。 ・総合文化センターの照明LED化については、5年リースを検討し設置費用を低価格に抑える提案をいただいたが、照明のLED化については、市施設全体で必要となっているため、次年度公共施設マネジメント室において最適な工法を検討することとする。																
第2次	ら2次評価コメント 一																	

〇争该計 Ш	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・具体的な取り組みはなかった。
成果	_
課題	・施設全体の老朽化が進む中、市民ニーズに応えつつ計画的に施設の改修を実施していく必要がある。

作成担当者	生涯学習部 神	社会教育スポー	ソ課	社会教育係	職名	係長	氏名	大塩 弘嗣	連絡先	(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポー	ーツ課長	氏名	田下 高標	阦	担当係長		土会教育係長	氏名	ナ	塩 弘嗣

〇実施計画

	務事第		公民館	事業								担当護	Ę		社会	教育課			
	4		市民全									7			体系		7-2-1		
目	RG				计生涯	学習を	足進するととも	に. 地は	ボコミュニ	ティの	醸成を	推進する。			新/継		 継続		
			113 2003	<u>п</u> тиле		1 8 6	<i>LE 7</i> 0CC 0	100	~~~	7 102	1327%	1E/E / Us			区分		ソフト		
	手段:	:	中央公	民館の選	単営と:	地区公	民館における名	各種教 室	宮、講座、	講演	会等のi	運営の支援			会計 一般				
					平成3	0年度				令和え	元年度			Į.	令和	2年度			
	年度別	ij	〇地区:	·講座の開公民館事 公民館事 館長・公日	業の実		手報酬	〇地区	・講座の開 公民館事 館長・公月	業の実		等報酬	〇地区	・講座の 公民館事 館長・公	業の実		宇報酬		
			決算額			(千円)	38,574	決算額	(A)		(千円)	38,293	決算額	(A)		(千円)		41,909	
			地区館長	₹∙分館長∙	分館主	事報酬	18,700	地区館	·分館長·	分館主	事報酬	18,742	地区館	長·分館長	-分館主	事報酬		18,782	
			公民館	事業委託	E料		15,172	公民館	事業委託	壬料		15,173	公民館	事業委	託料			15,225	
	事業費 ・財源		その他	事務諸紹	E費		4,702	その他事務諸経費 4,378 その他						事務諸	経費			7,902	
	741 W.	`																	
			特定		1,575	一般	36,999	特定		2,254	一般	36,039	特定		1,904	一般		40,005	
人	正規	職員	業務量	0.57	人	人件費	3,842	業務量	0.72	人	人件費	4,908	業務量	0.72	人	人件費		4,760	
件	嘱託	E員	業務量	0.81	人	人件費	2,396					2,329	業務量	0.00	人	人件費		0	
費	合	計		人件費合	計(B))	6,238	8 人件費合計(B)					7	人件費1	合計(B)		4,760	
事	業費台	信台	事	業費合計	†(A)+((B)	44,812	12 事業費合計(A)+(B)					530 事業費合計(A)+(B) 46,669			46,669			
	西指標 当たり=		評価指標(円/単位) 1					00 評価指標(円/単位) 1,526 評価指標(円/単位) 3,8						3,893					

〇評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度			令和2年度				
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値			
中央・地区公民館講座等事業参加者数	10,414	28,013	15,000	9,881	29,844	20,000	1,237	11,988	20,000			
							7月末現在					

〇事中評価

U ₩4	1計1四																
					評価	視点								今往	後の方向性	<u> </u>	
	妥	当性			有刻	防性			効2	率性		成果	拡充		4	2 V	1
1	2	3	4	1	2	3	• •						現状維持		3	5	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6		
総合評価判定 総合評価 性 休廃止 ⑦																	
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業組織・内容・主体の目前に検討																	
		ママッション マットマック マッチ		検討					5						コスト投力	の方向性	
・新型コロナウイルス感染症の影響により、事業・講座等が実施できない状況が続き、ようやく7月から各公民館の事業を開始することとなった。 ・感染症対策を施設として行うことが第一優先となってしまっており、「これからの公民館としてあるべき姿」「持続的に地域づくり」をするための体制づくりは今後の課題となる。																	
当年度開始後、約・感染症の影響により、従来の講座だけでなく、オンラインで行える講座や事業が必要となっている。 ・SNSを使った情報発信、動画発信、またオンライン講座に参加するためのツール(Zoomなど)を学ぶ講座を行った。これらの情報発信																	

3ヶ月が経過し新た に生じた問題等 に生じた問題等 に生じたできる」機会として従来の講座も重要視していく。

新年度の予算要求 事項(改革・改善案)

・公民館事業の予算は、地区公民館事業委託料と学級講座の講師謝礼が主なものになるが、事業の精査を継続しながらできるものを削除していく。
・新年度予算に関しては、現状維持としたいが、社会教育・公民館は今後の社会にとって非常に大切なものとなっていく。
・限られた予算で最大の効果が発揮できるような人員配置を要求したい。また今後オンライン講座の導入を進めていく上で必要な経費が出てくる場合要求したい。

・提案のとおり。本年度、各公民館にWi-Fi整備をするので、これらを活用した取組等を推進すること。 第1次評価コメント 第2次評価コメント

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・年間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響により、従来行っていた各地区の文化祭や運動会などの大きな行事や公民館関係者が一同に会する公民館研究集会が中止となった。しかし後期ではコロナ対策の方法を把握してきたこともあり、対策を講じながら出来る範囲でその時に出来る事を各公民館で実施し、地域のつながりづくり、学びの場の提供が途切れないよう努めた。 ・事業・講座数は、中央公民館では、59回の講座を実施し延べ915人、地区公民館では、510回の事業・講座を実施し、延べ11,073人が参加した。
成果	・コロナ禍の影響により従来の公民館活動の見直しが行えた。 ・新たな形の事業展開(Zoom講座やYouTube動画配信、SNSの活用など)が求められ、地域の特性や新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、工夫をした事業展開が実施できた。
課題	・新しい生活様式の中で、従来通りの公民館活動を行うことはしばらく難しいが、対面での人と人とのつながりづくりを第一に考えながらも、オンラインやSNSの活用も引き続き実施・検討していく必要がある。 ・コロナ禍での巣ごもりの影響による地域住民の「外に出たい」「他者とつながりたい」気持ちは強くなってきているため、その気持ちを公民館活動でどのように受け止め、形にしていくか検討が必要である。 ・分館役員が新型コロナウイルス感染症を理由に事業を止めてしまう傾向があるため、公民館活動の重要性を伝えつつ、分館活動の支援も必要である。

作成担当者	生涯字習部	甲央	公民館	職名	王任	氏名	女滕 寿秀	連絡先(内線)	3141
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高精						

〇実施計画

		業名	公民館:	分館施設	整備	事業						担当課			社会教	教育課		
		対象:	公民館	分館を利	用す	る住民									体系		7-2-1	
H	的						軽減し、生涯学	習活動	の充実を	-図る	0				新/継		継続	
															区分		ハード	
	手	发:	地区公.	民館、分類	館の	新築·増	改築工事に対	する補	助						会計		一般	
				<u> 3</u>	平成3	0年度				令和え	元年度					2年度		
	年度事業	を 関 内容	〇公民館 ・上西条	官分館改作				·大門五 ·柿沢(i ·金井(i ·広丘組	館分館改作 【番町(改作 改修)	多補助 多)			·大門+	1(改修) (改修)	攻修補助 攻修)・大		(改修)	
			決算額			(千円)	1,000	決算額	(A)		(千円)	6,750	決算額	(A)		(千円)		5,855
	事業 •財	養	公民館分	館施設整個	備事業	補助金	1,000	公民館分	介館施設整	備事業	補助金	6,750	公民館分	分館施設	整備事業	補助金		5,855
			特定		0	一般	1,000	特定		0	一般	6,750	特定		0	一般		5,855
人	正規	現職員	業務量	0.02	人	人件費	135	業務量	0.02	人	人件費	136	業務量	0.02	人	人件費		132
件	嘱	託員	業務量	0.00	人	人件費	0				0	業務量	0.00	人	人件費		0	
費	í	合計		人件費合)	135		人件費合	計(B)	136		人件費	合計(B))		132	
事	業費	合計	事	業費合計	(B)	1,135					6,886	6,886 事業費合計(A)+(B) 5,98			5,987			
		標1単							000 評価指標(円/単位) 1,377,264 評価指標(円/単位) 665					55,247				

○評価指標

		平成30年度	E	,	令和元年度	E		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
補助事業実施数	1	1	1	3	5	5	5	9	9

〇事中評価

〇事中	事中評価																		
					評価	視点								今往	多のブ	方向性	Ē		
	妥当	当性			有效)性			効型	率性		成	拡充		4	レ	2	1	
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3		5		
低い	低い やや やや 高い 低い やや 高い 高い 低い やや やや 高い 高									高い	方向	縮小		6					
		総合評	価判定					総合	·評価			性休廃止⑦							
	A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討						皆減 縮小 現状維持								拡大				
]容・主体 ・休廃止0		<i>,</i> 検討		コスト投入の方向性													
															コスト投入の方向性 になる傾向があることに加え、区民のため、個別の相談に応じ、随時適切				

な事業計画の策定を促した。

当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た 修の要望が高まっている。いずれも改修費が高額になる傾向があるため、限られた地区の予算において事業化への判断及び選択が に生じた問題等

新年度の予算要求 ・令和3年度の改修要望として、4地区4件あり、そのうち1件は新築となる。 事項(改革・改善案)・屋根や壁、床の改修、エアコン設置といった建物の用途維持及び市民の健康維持に必要な改修に対して補助するようにしている。

#3年度は、提案のとおり実施を認める。 - R4年度、R5年度の要望額は、例年通りの配分とする。金額の増減については、実施計画の補正対応とする。

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・大門七番町公民館外8箇所について、改修を実施した。 ・地域活動の拠点となる公民館、分館施設の改修に対し、補助金を交付した。
成果	・地域活動の拠点施設の機能維持、環境整備に寄与することができた。
課題	・各地区において、改修及び新築の要望があるが、施設の老朽化による屋根及び外壁の改修及び冷房設備の設置については費用が高額になる傾向がある。事業費の5/10は地元負担であり、区民の高齢化や人口減少による地元負担の増加が懸念され、事業化への決断が難しくなっている。

作成担当者	生涯学習部 社会教育スポ	ーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	大塩 弘嗣	連絡先	(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高	秋	担当係長	社	t会教育係長	氏名	ナ	塩 弘嗣

〇実施計画

事	務事業名	芸術文	化事業								担当課		i	社会教育	課	
目	か 対象	: 市民及	び芸術ス	文化活	動者								1	体系	7-2-	-2
Н	意図	: 市民の	芸術文化	比意識	の向上	と芸術文化活	動者の	拡大、活	性化に	こより、ア	市芸術文化の	振興を図	図る。 第	折/継	継糸	売
	手段:	士士法	・サル車	坐ねが	* 生 ⁄ 共 ↔	化研修事業の	四/定 =	生徒サル	車業	# 田 仝 /	の六什		[区分	ソフ	Ι-
	丁权.	마고마	人心争。	未及し	云则又	心が修事系の	肝) 准、2	云侧人儿	尹未1	領別並い	が文刊		1	会計	一 舟	፫ ፲
					0年度					元年度				令和2年		
	年度別 『業内容		文化事業 文化活動			Ľ		文化事業 文化活動			崔		文化事業(文化活動		の開催	
		決算額	Į		(千円)	4,481	決算額	(A)		(千円)	3,328	決算額	(A)	F)	千円)	1,522
		臨時職	員賃金等	等		1,599	臨時職	員賃金	等		1,012	会計年	度任用暗	栖 蜂員数		824
	+ ** #	芸術文	化事業	委託料	ļ	2,200	芸術文	化事業	委託料	ļ	2,200	芸術文	化事業委	託料		424
+	事業費 •財源	芸術文	化事業社	補助金	:	250	芸術文	化事業	補助金	:	90	芸術文	化事業補	助金		190
	- 只/ //示	その他	ļ			432	その他				26	その他	ļ.			84
		特定		90	一般	4,391	特定		0	一般	3,328	特定		0 -	一般	1,522
人	正規職員	業務量	1.16	人	人件費	7,818	業務量	1.16	人	人件費	7,907	業務量	1.16	人人	件費	7,669
件	嘱託員	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人人	件費	0
費	合計		人件費台	計(B)	7,818		人件費台	計(B)	7,907		人件費合	計(B)		7,669
事	業費合計	- 事	業費合詞	†(A)+	(B)	12,299	事	業費合詞	†(A)+((B)	11,235	事	業費合計	(A)+(B)		9,191
	西指標1単 当たりコス		西指標(F	月/単	位)	76,869	評伺	西指標(F	月/単	位)	70,216	評值	西指標(円]/単位))	382,948

○評価指標

		平成30年度	Ę	,	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
芸術文化事業参加団体数	83	160	170	79	160	175	0	24	175
芸術文化事業参加来場者数	2,950	6,950	8,000	2,050	6,602	8,000	0	1,200	8,000

〇事中評価

					評価	視点								今往	後の方向性		
	妥当	当性			有刻	沙性			効≅	陸性		成	拡充		4	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3 V	5	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6		
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7			
	iiどおりに きの進めた			が適当				_	`					皆減	縮小	現状維持	拡大
	3:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討														コスト投入	の方向性	
	D:事業の統合・休廃止の検討 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大対策の観点から、事業を実施見を主体とした会議の開催や、書面決議における意見の集約で、まずる取組状況 ・市内の芸術文化団体の活動支援のための補助金も、3件申請がはずとなった。											の自	主性を尊重	した。			
6ヶ月:	度開始(が経過)	し新た				染症の影				(中、ウィ	゙ズ・アフ	ター	-コロナで、安	そ心安全かつ	市民の関心	心を取り戻す	事業展開
新年度の予算要求 事項(改革・改善案) ・引き続き芸術文化5事業を開催するべく、現状維持としたい。																	
第1次評価コメント・提案のとおり。																	
第2次	第1次評価コメント ・提案のとおり。																

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、塩尻市芸術文化事業を、例年の5事業中1事業のみを縮小して実施した。(市民文化祭の展示発表のみ) ・市内の芸術文化団体の活動を支援するため、補助金を交付した。(3件)
成果	・新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、市民文化祭の展示発表のみではあったが開催できた。 ・活動者に日ごろの活動の成果発表の場を提供し意欲向上の一助とするとともに、市民がコロナ禍で数少ない芸術文化に触れる機会を創出することで、地域の芸術文化振興に寄与した。
課題	・塩尻市芸術文化振興協会会員の高齢化と会員減少が進み、入会時以来調査がされておらず、各会の実態が把握できていない。また、自主運営能力についても団体間で差が大きい。会員構成員等の実態調査、連絡調整、必要に応じて会の活動方法の検討が必要である。 ・例年、芸術文化事業の来場者が減少しているので、コロナ禍ではあるが、事業内容及び広報手段の見直しが必要である。

作成担当者	生涯学習部 社会教育スポー	-ツ課	社会教育係	職名	主任	氏名	田中理恵子	連絡先	:(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高和	阦	担当係長	社	t会教育係長	氏名		:塩 弘嗣

〇実施計画

	務事業	_	文化会	館運営	事業							担当課			社会教	教育課	
目	。 対	象:	市民及	び芸術	文化活	動者									体系		7-2-2
Н	意	図:	質の高	い芸術	文化錕	賞事業	等を市民へ安	価に提	供する。						新/継		継続
	手段:		サルム	蛇の笠	田宝	りしせ分に	カル祭骨事業	の中佐							区分		ソフト
	丁权:		又化云	貼の官	理理	60云彻.	文化鑑賞事業	の夫他							会計		一般
					平成	30年度				令和え	定年度				令和:	2年度	
			〇施設(の指定管	理			〇施設	の指定管理	理			〇施設	の指定管	理		
2	年度別																
事	事業内容	\$															
			決算額			(千円)	137,000	決算額	(A)		(千円)	134,350	決算額	(A)		(千円)	134,677
			指定管	理料			137,000	指定管	理料			134,350	指定管	理料			132,720
-	古 ** #												塩尻市	文化振	興事業	団	
	事業費 ・財源													事業	継続支	援金	1,957
	別加																
			特定		0	一般	137,000	特定		0	一般	134,350	特定		0	一般	134,677
人	正規職	溳	業務量	0.21	人	人件費	1,415	業務量	0.21	人	人件費	1,431	業務量	0.21	人	人件費	1,388
件	嘱託員	Ę	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0
費	合計	-	-	人件費·	合計(B)	1,415		人件費合	計(B)	1	1,431		人件費	合計(B)	1,388
事	業費合	計	事	業費合	計(A)+	(B)	138,415	事	業費合計	(A)+(B)	135,781	事	業費合	計(A)+((B)	136,065
評値	西指標1	単	単 評価指標(円/単位) 5,3					=# <i>l</i>	T+L+= / C	1 / 24	/±\	4.000	= 17. /	T+L+= /	ш /ж	/±\\	40.007
	当たりコス		計化	11指標(円/耳	년()	5,326	評1	西指標(円	ナ	1포)	4,669	評1	西指標(円/甲	.1또)	48,097

〇評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
芸術文化鑑賞事業等来場者数	13,873	25,988	26,000	3,070	29,083	26,000	0	2,829	27,000
文化会館貸館事業来場者数	53,780	115,214	105,000	30,395	97,772	105,000	1,150	13,550	106,000

〇事中評価

					評価	i視点								今往	後の方向性 かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん		
	妥当	当性			有刻				効≅	뚇性		成	拡充		4	2	1
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	5 L	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6		
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7			
B:事業	の進めた	:事業を進 方の改善	の検討						•					皆減	縮小	現状維持	拡大
	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討														コスト投ク	人の方向性	
	前年度の課題等に 対する取組状況・新型コロナウイルス感染症感染拡大対策の観点から、事業を実施												ができない。				
6ヶ月7	度開始(が経過し じた問題	し新た	•新型=	iロナウィ が必要。	イルス感	染症の	影響で事	業や貸	館の中」	止が続く	中、ウィ	ズ・	アフターコロ	ナで、安心安	安全かつ市民	民の関心を耶	双り戻す事
新年度の予算要求 事項(改革・改善案)・新型コロナウイルス感染症の影響で減収はしたものの、集客を見込める事業企画を行っており、現状維持としたい。																	
第1次	(評価コ	メント	·提案 <i>0</i>	Dとおり。													
第2次	(評価コ	メント			•	•			•		_						

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・文化会館の管理運営及び芸術文化活動支援事業等を指定管理者に委託実施した。
	・新型コロナウイルス感染症の影響で、事業の中止・延期が相次ぎ、来場者数は例年に比べて大幅に落ちたものの、館内客席等に先駆的に抗菌施すなど徹底した感染防止の対策を講じ、可能な限りで事業の実施に努めた。 ・市民ニーズを捉えた多種多様な事業の実施により、開催できたものに関しては、高いチケット販売率を達成している。
課題	・更なるウィズ・アフターコロナに対応した事業展開が必要。

作成担当者	生涯学習部 社会教育スポー	ツ課	社会教育係	職名	主任	氏名	田中 理恵子	連絡先	(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高標	钬	担当係長	社	t会教育係長	氏名	大	塩 弘嗣

〇実施計画

事	务事業	名	文化会:	館改修事	業							担当課			社会教	育課		
目的	, 対	象:	市民及	び文化会	館利	用者									体系		7-2-2	
н	意[図:	芸術文	化鑑賞事	業等	の実施	拠点を確保す	る。							新/継		継続	
	手段:		計画的	な施設及	び設	備の改作	修								区分会計		ハード	
						0左座				人 4 n -	左击					左曲	一般	
,						0年度				令和元	「 干				令和2			
	丰度別 業内容		〇吸収浴	予温水機	更新工	事			塔更新工業 水衛生ポン		事		〇非常	用発電機	設備改	修工事		
			決算額			(千円)	62,694	決算額	(A)		(千円)	14,256	決算額	(A)		(千円)		9,130
			吸収冷	温水機更	新工	事	51,300	冷却塔	更新工事	∓		5,885	非常用	発電機調	设備改值	多工事		9,130
	事業費		石油ガス	スバルク	設置:	工事	10,800	給排水	衛生ポン	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	事	5,236						
	•財源		ガスバノ	レク置き	場囲し	ハエ事	594	高圧受	電設備改	修工	事	3,135						
			特定	59	9,018	一般	3,676	特定	1	1,000	一般	3,256	特定		9,100	一般		30
人	正規職	貴	業務量	0.23	人	人件費	1,550	業務量	0.23	人	人件費	1,568	業務量	0.23	人	人件費		1,521
件	嘱託.	員	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費	0	業務量	0.00	人	人件費		0
費	合計	†	,	人件費合	計(B))	1,550		人件費合	計(B)		1,568		人件費包	合計(B)			1,521
事	業費合	計	事	業費合計	├(A)+(B)	64,244	事	業費合計	- 	B)	15,824	事	業費合	計(A)+(I	B)	1	0,651
	5指標1		評価	i指標(円]/単	位)	21,414,667	評値	西指標(円]/単	位)	5,274,560	評估	西指標(F	円/単作	位)	10,65	0,530

〇評価指標

	:	平成30年度	Ę		令和元年度	E	令和2年度			
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	
施設設備改修工事実施数	0	3	1	0	3	2	0	1	1	

○事中評価

<u> </u>	H 1 1PM																	
					評価	視点			_					今往	後の方向性			
	妥当	当性			有效)性			効率	×性		成	拡充		4	2	1	レ
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	(5)		
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い 低い 低い 高い 高い						方向	縮小		6			
		総合評	価判定			総合評価							休廃止	7				
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業相様・内容・主体の目前し 検討													皆減	縮小	現状維持	拉	大	
C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												コスト投入の方向性						
	度の課題 る取組		•今後必	必要となる	る改修エ	事の検	討∙協議	を行い、	長期の	改修計画	画の見画	直しを	を行っている	0				
6ヶ月7	度開始(が経過し が経過し	か新た	•保守点	検等に	より、新	たに改作	俢•修繕(の指摘を	受ける	箇所が増	創加して	いる	0					
	度の予算 改革・改		・大規模 ある。	関な改修	工事も実	 尾施予定	であるた	-め、保 [:]	守点検等	穿の指摘	事項の	内容	や緊急度を	考慮し、計	画的な改修	計画を検討す	る必	要が
第1次	*R3年度は、要求のとおりの実施を認める。 *R4年度は、屋根修繕工事とピアノのオーバーホールの実施を認める。 *市全体のハード事業の平準化を図る観点から、R4年度での要望があった外壁防水工事は、R5年度での実施とし、R5年度に要望があった舞台吊物機構等改修工事はR6年度以降での実施とする。																	
第2次	評価コ	メント									_							

〇争该計 Ш	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・非常用の発電機設備の改修工事を実施した。
成果	・施設利用に影響がないよう工期の調整を行い、予定された工期内に工事を完了した。
課題	・今後も舞台吊物機構更新工事など、大規模な改修工事が必要となってくるほか、先送りとなっている吊天井の耐震化工事や設備改修についても早期の工事実施が必要である。

作成担当者	生涯学習部 社会教育スポー	-ツ課	社会教育係	職名	主査	氏名	茅野 勇史	連絡先	(内線) 3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高和	阦	担当係長	社	:会教育係長	氏名	大塩 弘嗣

令和2年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	包括	基本戦略を包括し機能的に推進するプロジェクト
重点プロジェクト	9	地域ブランド・プロモーション
施策	2	子育で世代や若者の移住・定住の促進
		Bの子育て世代や学生、本市在住の若者等に対してプロモーションを行うとともに、受け皿となる住みよい環境を整えることにより 定住を促進します。

2 施策の指標における成果

	指標	単	基準値		目標値		
	担保	位	本午胆	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度
	地域ブランド調査居住意欲度 全国ランキング(1,000 市町村)	位	355 [H29]	341	458	210	250 位以内
統計	20~49 歳の社会増加数	人	158 [H26-28]	142	40	△ 16	158 (3年間の累計)
初店(移住相談をきっかけに塩尻市に移住した人数	人	23 [H28]	24	23	34	60 (3年間の累計)
	空き家バンクを通じて成約した空き家数	戸	13 [H28]	23	26	30	20

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

	取り組み①	移住・定住希望者へのプロ	ミモーション										
	手段	首都圏等の子育て世代や学生を対象に、本市に移住・定住するためのきっかけづくりに取り組み、モデルケースの創出を図ります。											
番号	佐 笠 た 堪 ら		担当課		事業費		重点化	方向性					
田力	心果で特別	以りの学功学末位	坦当杯	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単点し	成果	コスト	記号			
1	男女共同参画事業	(結婚支援)	男女共同参画・ 若者サポート課	167	133	120	0	拡充	現状維持	2			

4 施策の評価

〇事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・塩尻市は、女性も男性も共に、あらゆる分野に参画し、同じ人間としての自立と平等を目指し、男女共同参画都市宣言をしていることから、男女共同参画社会の実現に向けて、市民と協働して取り組んでいる。
(2) 事業の重点化	・男女が共に認め合い、助け合って、子育てがしたくなる街の実現に向けて、引き続き、講座等を実施し環境づくりを整える。
(3) 役割分担の妥当性	・市民の中から、企画から運営、講師までを選出することを検討し、かつ、民間ネットワークを更に広げて連携強化を図る。

(4)	施策指標の要因分析	_
(5)	施策の定性評価	・成人向けのデートDV予防研修を高校生を対象に行うよう変更実施すると共に、コロナ禍で講演会の実施が困難であったことなどから、ハッピーウーマンフェスタを開催するなど可能な範囲で実施した。 ・コロナ禍でDVなどの女性相談が増加しているため、適宜相談対応し問題解決が図られるよう人員の増強が必要であり、窓口の周知、啓発を推進していく。

評価者	所属	生涯学習部			職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下	高秋			

〇実施計画

事	務事業名	男女共	同参画事	事業(紅	洁婚支护	爰)					担当課	月	女共同	司参画•	若者サ	ポート課
目	対象:	結婚・b	出産から	子育で	に向か	う世代								体系		9-2-1
	意図:	結婚·b	出産の意	欲向_	上を図り	、少子化対策	につなけ	げる。						新/継		継続
	手段:	護定合	・	7 K 🖂 🗕	_ <i></i>	ップの開催								区分		ソフト
	丁权.	- 神典五	、碑庄及	.0.)	7/3	プクの 刑 惟								会計		一般
					0年度					年度					2年度	
			・出産応援					出産応援				〇結婚:				
	年度別	Oフイフ 講座	ケサイン	・ファイ	ナンシャ	ァルプランナー	ロフイフ 講座	ナサイン:	・ファイ	ナンシャ	ァルプランナー	○フイフ 講座	ケサイン	ン・ファイ	「ナンシュ	ァルプランナー
事	業内容						- 中/主					叶庄				
		決算額	(A)		(千円)	167	決算額	(A)		(千円)	133	決算額	(A)		(千円)	120
		講師謝	礼等			112	講師謝礼 122						礼			112
		費用弁	償			5	費用弁償 8 損						償			5
	事業費	その他				50	その他				3	その他				3
	•財源															
		特定		0	一般	167	特定		0	一般	133	特定		0	一般	120
人	正規職員	業務量	0.20	人	人件費	1.348	業務量	0.20	人	人件費	1.363	業務量	0.20	人	人件費	1,322
件	嘱託員	業務量	0.00	$\frac{1}{\lambda}$	人件費	-,	業務量	0.00	7	人件費	0		0.00		人件費	0
費	合計		人件費合	た 計(R		1.348			·計(R)		1.363		人件費·	<u>ハ</u> 合計(R		1,322
事	業費合計		業費合計			1,515										1,442
_		_ 	不只口口	100.0	,5,	1,010	于不見口川(A) (D)				1,496	▼			(0)	1,772
	西指標1単 らたりコスト	評価	西指標(P	9/単	位)	1,515,000	評価指標(円/単位) 7				748,100	評価指標(円/単位)			_	
1五 3	ョにッコスト					·					·					

○評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę	令和2年度			
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	
結婚・出産に向けた意識改革講演会数	1	1	2	0	2	2	-	0	2	
ライフデザイン・ファイナンシャルデザイン講座数	1	1	9	0	6	9	_	6	9	

〇事中評価

					評価	視点								今往	後の方向性 かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん	=		
	妥当	当性			有刻	効性 効				陸性		成	拡充		4	2	$\boldsymbol{\varsigma}$	1
1	2	3	4	1	2	3						果の	現状維持		3	⑤		
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やい	やや 高い	高い	方向	縮小		6			
総合評価判定							総合	評価			性	休廃止	7					
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討										皆減	縮小	現状	維持	拡大				
	C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討						В					コスト投入の方向性						
	きの課題 る取組		•市民#	ドランティ	アグル・	ープ・民	プ・民間事業者などと連携し、幅広い市民を対象とした講座を計画している。											
6ヶ月7	度開始で が経過 じた問	し新た		ロナ禍にだけ講座							図りたし	N _o						
新年度の予算要求 ・講師には、主に子育て世代の市民としているので、同一目線でニーズを捉えやすく、おおむね受事項(改革・改善案) 新年度も引き続き継続して取り組んでいきたい。										おむね受講	者には好評	を得て	ているこ	ことから、				
第1次	マ評価コ	メント	・共生社	t会の実	現に向	ナ、従来	の講座に	内容を続	けるの	ではなく	、事業内	容(の再構築を行	ゔうこと。				
第2次評価コメント																		

<u>○争後計価</u>	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・女と男21ワーキンググループ活動を支援し、SDGsの自主学習会を開催した。 ・3月8日の国際女性デーに合わせて女性活動の支援と女性の地位向上の啓発を目的として、ハッピーウーマンフェスタを開催した。 ・昨年度まで教職員を対象に行っていた「デートDV予防研修」を、今年度から市内の高校において実施したほか、男女共同参画情報 誌「共に」の発行を実施した。
成果	・女と男21ワーキンググループの自主学習会を3回開催し、今後のボランティアグループの主体的な活動の企画運営のための一助となった。 ・デートDV予防研修は、田川高校と志学館高校の2校で実施し、お互いを尊重することや自分自身で身を守る方法を学ぶ機会となった。 ・女性相談の総件数は199件で、そのうちDV関係の相談は73件だった。コロナ禍で弱い立場にある女性の生活上の様々な悩みについて必要な支援につなげた。
課題	・セミナーや講座ともに参加者が少ないことが課題だったが、コロナ禍でさらに拍車がかかっている状況である。Zoomなどを使ったリモート開催なども視野に入れ、実施方法について検討していく必要がある。

作成担当者	生涯学習部 社会	教育スポーツ課	果 共生推進係		課長補佐	氏名	氏名 三浦 恵美子		(内線)	3150
最終評価者	社会教育スポーツ	/課長 氏名	田下 高	秋	担当係長	ŧ	共生推進係長	氏名	三浦	恵美子

令和2年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	包括	基本戦略を包括し機能的に推進するプロジェクト
重点プロジェクト	10	地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり
施策	2	知恵の交流を通じた人づくりの場の提供
目的		を流センター機能を中心に、知恵と意欲を持つ人材や団体の活発な活動・交流を促進するとともに、情報の集積拠点として、多様な が求める知識の習得を支援することにより、新たな知恵と価値が創出される場を提供します。

2 施策の指標における成果

	指標	単	基準値			目標値	
	相保	位	本华胆	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度
	まちづくりチャレンジ事業を実施し、自立運営している団体数	団体	20 [H29]	22	29	30	30
統計	市民交流センター貸館利用率	%	79.5 [H28]	80.2	75.9	72.8	80.0
初に合け	レファレンス受付件数	件	2,410 [H28]	2,095	2,314	1,962	2,900
	図書館の市民1人当たり貸出冊数	₩	9.7 [H28]	9.9	10.0	9.7	10.0
市民	市民が中心となったまちづくり活動が活発に行われていると感じる市民の割合	%	26.6 [H29]	30.0	28.3	28.2	36.0

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

	取り組み①	市民活動の支援と人の交流	流の促進								
市民や市民団体が、新たな公共サービスの担い手としてまちづくりに参画するため、研修会や講演会、チャレンジ事業補助金制 「「「「「「」」」では、自立した団体運営の確立を支援します。また、市民交流センターの機能を活用した事業展開を図 「とにより、多様な団体や人材の交流を促進します。											
番号	佐竿去掛	・ 式する事務事業名	担当課		事業費		重点化	方向性			
钳万	心束で無り	火 9 ② 争伤 争 未 石	担当床	平成30年度	令和元年度	令和2年度	里从化	成果	コスト	記号	
1	協働のまちづくり推	進事業	交流支援課	3,125	3,204	2,708		現状維持	現状維持	5	
2	市民交流センターダ	を流企画事業	交流支援課	14,754	15,183	15,525	0	拡充	現状維持	2	
3	市民交流センター管	管理諸経費(施設改修)	交流支援課	5,296	8,946	4,109		拡充	拡大	1	

	取り組み②	確かな情報による課題解決	央の応援							
新児からシニア世代までの幅広い市民を対象とした質の高い総合的な図書館サービスを実現するとともに、利用者のニー 資料・データの整備とレファレンス等による的確な情報提供体制を充実させることで、多様な課題の解決を応援します。										
番号	佐竿去掛	成する事務事業名	担当課		事業費		重点化		方向性	
钳万	ルスで円	以りる事務争未有	坦当床	平成30年度	令和元年度	令和2年度	里点儿	成果	コスト	記号
1	図書館サービス基準	盤整備事業	図書館	61,224	59,035	53,493		拡充	拡大	1
2	図書館事業諸経費		図書館	74,029	78,226	151,754	_	_	_	-
3	本の寺子屋推進事	 業	図書館	2,280	2,184	1,799	0	拡充	拡大	1
4	市民読書活動推進	事業	図書館	1,978	2,016	1,814		現状維持	現状維持	5

4 施策の評価

〇事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・知恵の交流拠点としての市民交流センターの機能を効果的に発揮することにより、役立つ情報を提供し、人々の意欲と活動の輪を広げ、新たな知恵の創造を促すための仕掛けを常にブラッシュアップを図りながら展開し、次代を担う「人づくり」につなげている。 ・個別化、複雑化する多様な市民のニーズや新たな地域課題、社会問題に対し、市民活動団体と行政とが、お互いの特性を認め合い、意思の疎通を図りながら役割分担をし、公共サービスを提供することができるように、団体の育成や支援を行う「まちづくりチャレンジ事業」や研修会を実施し、人材育成を図っている。 ・図書館の本来的な役割である情報・知識の集積と提供においては、10年間の収集資料を基盤としてさらなる充実を図り、加えて魅力的な企画の提供により、市民の暮らしに役立つ図書館として認知度と利用度をさらに高めていく。
(2) 事業の重点化	・市民交流センターは令和2年度に10周年を迎え、これまでの取り組みを振り返り、また新たな10年に向けて、「進化し続ける市民 交流センター」として再スタートを切り、さらなる充実とレベルアップを目指し、事業運営を進めていく。 ・新型コロナによる社会変動は、図書館における情報提供やイベントのあり方にも大きな変化を求めている。情報通信技術を生か したWEBによる情報提供サービスの充実に加え、新たな発想と工夫による事業展開が重要である。
(3) 役割分担の妥当性	・市民交流センターの来館者数は、平成24年度以降、年間60万人を超えていることから、市民が集い、語り、憩い、楽しみ、学ぶ場として定着してきている。10年を経過した現在も、地域ブランドとして親しまれていることから、北部交流センター等とも連携しながら、さらなる魅力を発信していくことが重要である。 ・市民交流センターと北部交流センターが担っている「地域づくりにつながる人づくり」を進めていくうえで図書館が果たす役割は大きい。不確実性が高まる社会情勢において、確かな情報や知識を市民の暮らしに提供していくことがさらに求められている。

(4) 施策指標の要因分析	・まちづくりチャレンジ事業により補助金を受け自立運営している団体は、期間内の目標値には達したものの、令和2年度では1団体にとどまった。新型コロナウイルス感染症拡大が活動の制約につながったことが一つの要因である。一方、社会変容の中で新たな市民活動が必要とされる契機ともなっており、相談件数は増加の傾向があった。 ・市民交流センターの利用については、新型コロナウイルス感染症拡大のなかで、施設の感染症対策のための一部利用制限に加え、団体等の活動が停滞する影響があったことから減少した。 ・図書館の運営についても感染症対策のための利用制限や休館の影響により、レファレンス件数と貸出冊数ともに減少したものの、6月以降は感染症対策を講じたうえで開館したため微減にとどまり、高い利用水準を維持することができた。
(5) 施策の定性評価	・市民交流センターは、社会の変化に対応して地域課題の解決につながる「知恵の交流を通じた人づくりの場」であることを使命として、進化することが求められてきた。新型コロナウイルス感染症という大きな社会的インパクトの中で、情報の発信と交流拠点、地域課題を解決するための活動拠点として果たすべき役割は増している。 ・不確実性が高まる社会状況のなかで、図書館を中核として確かな情報や知識を提供し、市民交流センター全体で複合施設としての強みを生かし、新たなサービスを生み出し続けることが求められる。ポストコロナを視野に入れて、さらなる進化を遂げていく必要がある。

評価者	所属	生涯学	習部	職名	部長	氏名	胡	桃 慶三
施策担当課長	市县	民交流センター	氏名	史生		図書館	氏名	上條 史生

〇実施計画

事	務事業名	協働の	まちづく	り推進	事業						担当課			交流戈	を援課		
目	対象:	市民、ī	市民公益	·活動	団体									体系		10-2-1	
	意図:	市民及	び市民な	公益活	動団体	等の主体性・目	自主性の	り向上や	舌動0)活性(比を図る。			新/継		継続	
	手段:		、研修会 の育成、			づくりチャレン	ジ事業	実施団体	へのネ	浦助金3	交付により、市	民公益	民公益活動 区分 会計			ソフト 一般	
				0年度		令和元年度							令和2	2年度	732		
	年度別 事業内容 「本度の計画を表現である。」 「本度のまたる。」 「本度のまたる。」 「本度のまたる。」 「本度のまたる。」 「本度のまたる。 「本を。							○まちづくリチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信					支援組約 会、研修	マレンジョ 職による。 会の開作 動団体等	支援 催		
		決算額	(A)		(千円)	3,125	決算額	(A)		(千円)	3,204	決算額	(A)		(千円)		2,708
		市民活	動支援	業務委	託料	1,402	市民活	動支援業	養務委	託料	1,415	市民活	動支援	業務委	託料		1,428
	+ * =	まちづく	りチャレン	ジ事業	補助金	542	まちづく	りチャレン	ジ事業	補助金	739	まちづく	りチャレ	ンジ事業	補助金		300
+	事業費 ・財源	市民営	提案事業	業委託	:料	648	市民営	提案事業	季託	料	654	4 市民営提案事業委託料				660	
	7/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1	その他				533	その他	l			396	その他					320
		特定		1,208	一般	1,917	特定	1	1,393	一般	1,811	特定		960	一般		1,748
人	正規職員	業務量	1.75	人	人件費	11,795	業務量	1.75	人	人件費	11,928	業務量	1.50	人	人件費		9,917
件	嘱託員	業務量	0.75	人	人件費	2,219	業務量	0.75	人	人件費	2,055	業務量	0.00	人	人件費		0
費	合計		人件費台	計(B))	14,014		人件費合	計(B))	13,983		人件費	合計(B)			9,917
事	事業費合計 事業費合計(A)+(B) 17,139					17,139	事業費合計(A)+(B)				17,187	187 事業費合計(A)+(B)			B)	1	2,625
		評価指標1単 位当たりコスト 評価指標(円/単位) 5,713,000				5,713,000	評価指標(円/単位) 2,4			2,455,286	6 評価指標(円/単位)			位)	6,31	2,250	

〇評価指標

		平成30年度	Ę	令和元年度				令和2年度			
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値		
まちづくりチャレンジ事業実施団体数	2	3	13	5	7	13	1	2	13		
研修会や講座等の開催数	2	7	20	2	7	20	0	11	20		

〇事中評価

					評価	視点								今往	後の方向性 しゅうかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい													
	妥当	当性			有刻				効率	陸性		成	拡充		4	2	1											
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	5 L												
低い	やや 低い	や高	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	や低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6													
		総合評	価判定					総合	評価	,		性	休廃止	7														
	iどおりに の進めフ			が適当					3					皆減	縮小	現状維持	拡大											
	規模・内 の統合・			検討					•						コスト投入	の方向性												
	きの課題 る取組:			を																								
6ヶ月7	度開始後 が経過し じた問題	し新た	·新型= い。	ロナウィ	イルス感	染症の	影響もあ	り、申し	込み件数	数が減少	>した。←	今後 年	も特設相談 窓	窓口を開設す	†るなどして.	、情報の周知	に努めた											
	ぎの予算 改革・改			まちづくりチャレンジ事業が団体にとって有効であったかどうかは、長期的な視点をもって判断していく必要があり、引き続き活動団体への支援をしていく。																								
第1次	(評価コ	メント		・まちづくりチャレンジ事業補助金については、補助制度の再設計や手続きの簡素化等を行い、チャレンジしやすい制度へと改善すること。新年度予算編成までに変更案を提案すること。																								
第2次	(評価コ	メント									_						_											

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・まちづくりチャレンジ事業相談窓口を年5回開設し、制度の積極的な情報周知に努めた。また、プレスリリースでの情報発信を行い、他市町村や庁内他部署とのネットワークを通じたやり取りが増加した。 ・講座は、Zoomの使い方講座を開催するなどして、Zoom初心者でも学べるような環境を作り、講座にオンラインを採り入れることで、多くの人が参加しやすい工夫をした。講座におけるアンケート調査を実施したので、アンケート結果を次年度開催に向けて活用する。(回答は、市民活動団体28団体から得られた。)
成果	・まちづくりチャレンジ事業は申込件数に課題がある一方で、相談は制度運用開始8年間で平成26年に並び最も多い19団体だった。・ ・庁内の他部署、スナバ、商工会議所、塩尻市社会福祉協議会、他市町村の行政機関などの紹介による相談が増加し、関係各所などとのネットワークや連携を強化することができた。
課題	・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、まちづくりチャレンジ事業の申込件数が減少した。一方で、相談件数は制度運用開始後、最も多かった。今後は、相談から申し込みにつながらないケースを検討し、原因を適切な制度運用に反映させることが必要である。
作成担当者 生涯学	習部 市民交流センター 市民活動支援係 職名 主事 氏名 西澤 勘之 連絡先(内線) 4221

作成担当者	生涯学習部 市民交流	センター・オ	ī民活動支援係 職	名 主事	氏名	西澤 敬之	連絡先	(内線) 4221
最終評価者	市民交流センター長	氏名	上條 史生	担当係長	市	民活動支援係長	氏名	上條 さやか

〇実施計画

事	務事業名	市民交	流センタ	一交流	充企画	事業					担当課			交流支援課			
目白	対象:	市民全	体、事業	者、名	各種団体	、市外からの	来館者							体系		10-2-1	
	意図:	新しい。	人々や多	くのノ	(々が糸	えず集い行き	交う場を	を創出し、	知恵	の交流	を通じた人づく	りを図る	5.	新/継		継続	
	手段:					人の集まる場	を提供し	、5つの	重点统	分野と名	ト分野の機能層	姓合を目	指し	区分		ソフト	
	T+X.	た企画	事業を開	催す	る。									会計		一般	
					0年度					年度				令和2年度			
			₹流センタ− 用満足度(館受付と記			:流センタ- 用満足度		館受付と	証明発行業務の		を流センタ リ用満足原		館受付と記	证明発行業務の	
	丰度別	Oセンタ·	一運営方法	まの協語			〇センタ-	一運営方法	もの協調			〇センタ	ター運営方法の協議				
事	業内容		重点分野を)機能を活っ			事業等の実施 ^施		重点分野る)機能を活			事業等の実施 '施		○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施				
		〇市民営	提案事業			心 流企画イベント	〇市民営	提案事業			流企画イベント	〇市民富	営提案事:			ル 流企画イベント	
		の継続実					の継続実					の継続す	~~~				
		決算額			(千円)	•	決算額			(千円)		決算額	• • •		(千円)	15,525	
			員賃金等	-		•	臨時職員賃金等					会計年				10,391	
3	事業費		運営事業			•		運営事業				IT講座				1,499	
	,未 页 • 財源		提案事業			•		提案事業			市民営				1,417		
			ベント開イ	催委部	E料			ベント開	崔委許	E料		交流イ		開催委託	E料	597	
		その他					その他					その他				1,621	
		特定		1,217	一般	13,537	特定		813	一般	14,370	特定		378	一般	15,147	
人	正規職員	業務量	1.61	人	人件費	10,851	業務量	1.61	人	人件費	10,974	業務量	2.02	人	人件費	13,354	
件	嘱託員	業務量	1.13	人	人件費	3,343	業務量 1.13 人 人件費				3,096	業務量	0.00	人	人件費	0	
費「	合計		人件費合	*計(B))	14,194	4 人件費合計(B)				14,070		人件費	合計(B))	13,354	
事	業費合計	事	業費合計	†(A)+((B)	28,948	48 事業費合計(A)+(B)					253 事業費合計(A)+(B) 2			28,879		
	5指標1単 はたりコスト						評価指標(円/単位)				432	評値	価指標(円/単位)			795	

○評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
貸館利用者数(人)(8月末(R2は7月)、3月末現在)	30,798	76,398	70,000	28,046	67,730	70,000	7,976	36,316	70,000
講座・イベント等参加満足度(%)(8月末(R2は7月)、3月末現在)	98	96.6	70	97.6	96.2	70	92.5	95.5	70

〇事中評価

O#+					評価	視点								今往	後の方向性			
	妥当	当性			有刻	 沙性			効率	座性		成	拡充		4	2	レ	1)
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	⑤		
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やい	やや 高い	高い	方向	縮小		6			
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7				
B:事業	の進めフ	事業を進 方の改善	の検討						3					皆減	縮小	現状	維持	拡大
	の統合・休廃止の検討																	
	その課題 る取組		・広報に 目に留	イベント実施後、講師の方々とアンケートを共有し、次回の内容の参考にし、ニーズに沿ったものを検討している。 広報については、積極的にチラシの配布、ホームページでの周知を行い、さらに、新聞社へのプレスリリースを行い、より多くの人の 別に留まるように告知を行う。 施設利用方法については、窓口担当者及び課内職員会議にて対応方法を統一し、丁寧な案内を行っている。														
6ヶ月7	度開始役 が経過し じた問題	し新た	·新型= がら、=	ロナウィニーズに	イルス感 沿ったイ	染症に。 ベントを	より、利用 検討する	用者数カ る必要カ	「減少、 「ある。	イベント1	企画自体	ホ がマ	延期又は中	止になってい	る。感染症	拡大⊄)防止	策を講じな
新年度 事項(ē	₹の予算 牧革・改	・イベント開催において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策が必要であるため、参加者数を減らすなど対応を行うが、 例年より開催に必要な費用が増えることが予想される。 ・市民党提案事業から生まれた「こども」おじればついては、独自性があり高い延価を得ているため、引き続き季託事業として実施す																
第1次	次評価コメント ・市民交流センター運営管理方針を見直し、次の10年間の方向性を導き出すこと。																	
第2次	評価コ	メント									_							

〇争俊評個	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	・施設機能(ICTルーム)を活用し、暮らしや仕事に役立つ「ばそこん基礎講座」を25講座28回実施した。 ・ビジネス支援や子育て支援・青少年交流など、多様な内容による講座や講演会を実施し、五つの重点分野を融合した事業を8事業18回開催した。 ・新型コロナウィルス感染症対策のため、市民営提案事業による交流企画事業こどもだけの街「こどもしおじり」については、オンラインで実施した。 ・センターの貸館業務や証明書交付を行い、丁寧な窓口対応を心掛けた。
成果	・新型コロナウィルス感染症の影響により、多くの講座や講演会、また大人数の集まるイベントについては規模縮小若しくは中止としたが、年間で延べ1,600人の参加があり、機会が減りながらも交流を通じた新たな知恵の創造につなぐことができた。
課題	・新型コロナウィルス感染症の状況を注視しながら、可能な限り事業を開催するとともに、住民のニーズに合わせた内容での講座を再検討し、より効果的に事業を実施していく必要がある。
# 15 to 11 to 11 to 12 t	

作成担当者	生涯学習部	市民交流センタ	岁 一 市	民活動支援係	職名	主事	氏名	井原 大輔	連絡先	(内線) 4253
最終評価者	市民交流セ	ンター長	氏名	上條 史:	生	担当係長	市县	民活動支援係長	氏名	上條 さやか

〇実施計画

事務	事業名	市民交	流センタ-	一管理	諸経費	(施設改·	修)						担当課			交流支	を援課		
目的	対象:	市民交	流センタ-	一の利	用者								-			体系		10-2-1	
H 113	意図:	利便性	や満足度	の向上	と施討	殳機能のi	適切な	な確保を	図る。							新/継		継続	
_	段:	+ / =.⊓. / +	+ + + + 17/\-	<i>t</i>	の敬は	備∙清掃∙♬	E + 击 4	旧如田台	坐扱にな	7 4# +-	E des IIII d	\ 				区分		ハード	
7	权:	心はくさ	竹叩刀で	23U)	の言り	用「月折」	吐 甲/	物筐埋	未伤门心	る雅介	1日垤0	ノ天心				会計		一般	
			3	平成30:	年度					令和え	元年度					令和2	2年度		
	度別 内容		機器整備 ス防水塗装		肖防設値 その他値			〇飛散	機器整備 防止フィ. ドア整備	ルム張	消防設(り替え その他(i 〇空調設備整備 〇消防認 〇飛散防止フィルム張り替え 〇その他修繕					備整備	
		決算額	(A)	(千円)	5	.296	決算額	(A)		(千円)		8.946	決算額	(A)		(千円)		4,109
		営繕修		,				空調設						7 空調設備整備					1,404
			備点検委	託料				消防設					1,440	0 消防設備整備					1,021
	業費							屋上防水工事						遮熱フィ	ハム財	替			1,172
- H	才源						その他修繕料						261	その他	修繕料				512
		特定		0	一般	5	,296	特定		343	一般		8,603	特定		209	一般		3,900
人正	規職員	業務量	0.45	人ノ	人件費	3	,033	業務量	0.45	人	人件費		3,067	業務量	1.16	人	人件費		7,669
件	属託員	業務量	0.10	人丿	人件費		296	業務量	0.10	人	人件費		274	業務量	0.00	人	人件費		0
費	合計		人件費合	計(B)		3	,329	9 人件費合計(B)					3,341		人件費台	>計(B)			7,669
事業	費合計	事	業費合計	(A)+(B)	8	,625	25 事業費合計(A)+(B)					12,287	事	業費合語	†(A)+(B)		11,778
	≦標1単 :りコスト						13	B 評価指標(円/単位)					19	評価	f指標(F	円/単·	位)		25

〇評価指標

		平成30年度	Ę	•	令和元年度	Ę	令和2年度			
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	
市民交流センター来館者数(8月末(R2は7月)、3月末現在)	287,899	682,729	690,000	288,091	643,131	690,000	124,587	471,008	690,000	
市民交流センター視察・見学者数(8月末(R2は7月)、3月末現在)	575	1,145	1,280	336	895	1,200	24	334	1,200	

○事中評価

〇爭甲	'計"																	
					評価	視点								今	後の方向性			
	妥铂	当性			有效	沙性			劾≅	뚇性		成	拡充		4	2	1	$\boldsymbol{\varsigma}$
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	(5)		
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	から	高い	方向	縮小		6			
		総合評	価判定				•	総合	評価		,	性	休廃止	7				
		事業を進	進めること の検討	が適当										皆減	縮小	現状維持	拡	大
		容・主体 ・休廃止の	の見直し の検討	検討					3			/			コスト投ノ	人の方向性	,	
対す 当年 6ヶ月:	度の課題 る取組 度開始領 が経過にた問	状況 後、約 し新た	館からけて対け・夏季のりするな	・今年度は、その他修繕料を超える修繕が発生し、予定している保守業務を次年度以降に先送りするなどの調整を行う必要が出た。開館から10年が経過し、施設全体の老朽化、空調を始めとした設備の同時発生的な故障が懸念される中、修繕については優先順位をつけて対応している状況である。また、修繕工事の実施については館全体の開館状況及び貸室状況を見ながら調整している。 ・夏季の降雨により新たな雨漏り箇所が判明し、当初想定していなかった対応を余儀なくされている。これにより予定していた事業を先送りするなどの調整が必要となった。 ・残りの半期で新たな修繕箇所が発生すると対応が困難となり、利用者の満足度に答えられなくなる可能性がある。また、予定しているフロン排出抑制法による法定点検の結果によっては、さらなる空調の修繕が必要となる可能性もある。														
	度の予算 改革・改		今後もめ、長期	開館から10年が経過し、施設内で修繕が必要になる箇所が増えている。 今後も空調をはじめとした施設設備の修繕に対応するため、優先順位を付けて修繕し、予防保全していかなければならない。そのため、長期修繕計画に沿って計画的に機器を入れ替えるなど、適正な保守が必要である。特に施設設備上の主要な課題としては、蛍光管の生産終了にともなう館内照明のLED化を適切に進める必要がある。														
第1次	マ評価コ	メント	•防水道	・第3期中期戦略中の市民交流センター施設改修費は、各年度26,000千円の範囲で実施することとする。 ・防水塗装工事等緊急性の高い物から実施すること。ただし、照明のLED化は市施設全体の課題となっていることから、リースでの設置 等公共施設マネジメント室において最適な工法を検討することとする。														
第2次	第2次評価コメント ・第1次査定のとおり実施すること。																	
o ± //																		

区分	年間(4月~3月)
取組内容	・長期修繕計画で予定していた空調機中性能フィルター交換、室内環境の安定化を図るためのフィルム貼替等を実施した。 ・消防関係としては誘導灯の蓄電池交換等を実施した。 ・空調機器等の突発的な修繕を行った。
成果	・機器の不具合発生の都度、迅速に対応したことにより、利用者の利便性、快適性を損うことなく施設・設備の維持、管理につなぐことができた。
課題	・修繕の実施状況を加味し、長期修繕計画を見直し計画を立てることが必要である。 ・開館から10年以上が経過し、多くの機器類等で部品交換などのタイミングを迎え、突発的な修繕は今後さらに頻発することが予想される。 る。 ・子育て支援センター内の床暖房は、経年劣化により運転できない状況が生じている。今後、予算や利用状況等を考慮し、早期に修繕を行っていかなければならない。

作成担当者	生涯学習部	市民交流センタ	一 市	民活動支援係	職名	主査	氏名	石井 健郎	連絡先	(内線)	4210
最終評価者	市民交流セン	クター長	氏名	上條 史金	ŧ	担当係長	市民	民活動支援係長	氏名	上	條 さやか

〇実施計画

틕	務事	業名	図書館	サービス	基盤	整備事	業					担当課			図	書館		
F	的	対象:	図書館	の利用者	首										体系		10-2-2	
F	נחו	意図:	図書や	地域資料	半をい	かして、	生活や仕事、	学習を	支援する。	,					新/継		継続	
	手戶	л.	回事华	の唯ユ	次业	* = ` A	の整備、図書	会会と、フェ	ニノナエ	mı +	ш г	フの担併			区分		ソフト	
	7-5	文:	凶音寺	切牌人、	貝科:	サナーク	*の笠浦、凶音	貼ン人	アムを治し	HI U/S	- J — C	人仍使识			会計		一般	
					平成3	0年度				令和え	元年度				令和	2年度		
	年度 事業		〇図書館	データ整備 官資料の! 処点シスラ	購入	修			データ整備 館資料の見					データ整 館資料の				
			決算額	(A)		(千円)	61,224	決算額	(A)		(千円)	59,035	決算額	(A)		(千円)		53,493
			図書館	システム	使用	料	14,125	図書館システム使用料					図書館	システ.	ム使用	料		14,125
	+ **	4 #	図書購	入費			36,999	図書購入費					図書購	入費				30,000
	事業 財		図書デ	ータ作成	等委	託料	1,516	図書館	システム	改修	委託料	2,900	図書デ	ータ作	成等委	託料		1,235
	7/1	加不	その他				8,584	その他				10,011	その他					8,133
			特定		35	一般	61,189	特定		0	一般	59,035	特定		15	一般		53,478
人	正規	現職員	業務量	0.67	人	人件費	4,516	業務量	0.67	人	人件費	4,567	業務量	1.95	人	人件費		12,891
件	嘱	託員	業務量	2.69	人	人件費	7,957	業務量	3.74	人	人件費	10,248	業務量	0.00	人	人件費		0
費	í	合計		人件費合	計(B))	12,473		人件費合	計(B)	14,814		人件費	合計(B)		12,891
哥	業費	合計	事:	業費合計	†(A)+(B)	73,697	事	業費合計	- - - -	(B)	73,849	事	業費合	計(A)+	(B)		66,384
		標1単	評価	i指標(P	一月/単	位)	148	評估	西指標(円]/単	位)	147	評价	西指標(円/単	位)		132

〇評価指標

		平成30年度	Ę		令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
蔵書数(冊)	488,990	497,313	485,000	503,946	503,349	510,000	504,593	503,697	525,000
								·	

○事中評価

<u> </u>	<u> </u>				評価	視点								今往	後の方向性			
	妥当	当性			有刻	9性			効≅	軽性		成	拡充		4	2	1	レ
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	(5)		
低い	やや 低い	草むでか	高い	低い	やや低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6			
		総合評	価判定				•	総合	評価		•	性	休廃止	7				
B:事業	A:計画どおりに事業を進めることが適当 3:事業の進め方の改善の検討 3:事業相様 内容・主体の目盲」 拾計												皆減	縮小	現状維持	拡	大	
):事業の統合・休廃止の検討														コスト投力	の方向性		
	 ・市民のニーズに対応できる資料・情報の充実を図った。 ・新型コロナウイルス対策として休館になってからは、電話等でのレファレンス、ホームページでの情報・動画の発信を行い、開館に向け感染対策や消毒など館内環境の整備を行った。また、開館後はテイクアウト本の貸出、郵送(有料)貸出、新型コロナウイルスのテーマコーナーの設置なども行った。 ・来年度のシステム更新に向けて、利用者と職員の双方が利用しやすい機能強化を検討している。 																	
6ヶ月7	度開始(が経過) じた問	し新た	至ってし ・大和市	いない。	市との間	『で締結	した図書	館の連	携∙協力	に関す	る同盟を					·分なサービ: :なっている中		
	が年度の予算要求 ・市民のニーズに対応できる、様々な資料・情報の更なる充実が必要である。 ・図書館の基幹業務の効率化、市民ニーズに沿った質の高い統計情報を得られるシステムの導入を令和3年10月に行う予定である。 機能に見合ったシステムを選定できる予算を要望する。																	
第1次	(評価コ	メント												務プロセスの	り見直しを行	うこと(電子	決済シ	ノステ
第2次	ムの活用、決裁区分の見直しなど)。RPA導入については、内製にて対応すること。 ②次評価コメント 一																	

() 学後計画	
区分	年間(4月~3月)
取組内容	 ・市民のニーズに対応するための資料購入と情報の古い資料の除籍を進めた。 ・図書館システムを活用することで、新型コロナウイルス感染症による一部サービスの停止期間であっても積極的に予約資料の提供などを行うことができた。 ・図書館システムの更新に向けて、機能要件の検討や業者の選定を行った。
成果	・図書館資料の充実で、市民の課題に対応するための情報提供基盤が整備され、図書館ホームページからのweb予約数は、前年と比べ21,000件増加した。また、十分なコロナ対策を行いながら資料提供を行い、6月からは例年どおりの貸出数に戻すことができた。・システム更新に向けて機能要件の検討とリストを進め、図書館システムを扱う各社のパッケージ機能の確認や導入館の視察を行った。
課題	・様々なニーズに対応できる資料・情報のさらなる充実と、提供する職員の資質向上が必要である。 ・図書館を安全に利用してもらうため、新型コロナウイルス感染症対策として利用者と職員の十分な感染症対策を行う必要がある。 ・システム更新に向けた機能の検討を行い、利用者と職員の利便性が向上するように選定を進める必要がある。

作成担当者	生涯学習部	3	図書館	職名	主任	氏名	矢ケ崎 文	連絡先	(内線)	4106
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史:		担当係長	[3	図書館副館長	氏名		治橋 多恵

〇実施計画

事系	务事業名	本の寺子屋推進事業			担当課		図書	館	
目白	対象 :	市民全体					体系	1	0-2-2
	意図:	本に関わる人や企業をつなる	ぎ、生涯読書を	進める。			新/継		継続
	手段:	「本の寺子屋」を中心とした講	まごろりローク	たっぷっ			区分		ソフト
-	十 权:	「本の寺士座」を中心としに 	神漢云でソーク	プラック、正画展の美地			会計		一般
		平成30年度		令和元年度			令和2	生度	
	F度別 業内容	○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開作		○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催		○本の寺子屋記 ○子ども本の寺 ○地域文化サロ ○古田晁記念館	・子屋開作 コン開催	催	<u>!</u>
		決算額(A) (千円)	2,280	決算額(A) (千円)	2,184	決算額(A)		(千円)	1,799
		講師謝礼	1,009	講師謝礼	1,032	講師謝礼			674
급	5 光 走	費用弁償	379	費用弁償	369	費用弁償			168
	₣業費 ·財源	印刷製本費	416	印刷製本費	416	印刷製本費			424
	7/1 ////	企画展示品借上料	296	企画展示品借上料	243	企画展示品借	上料		377
		その他	180	その他	124	その他			156
		特定 0 一般	2,280	特定 0 一般	2,184	特定	207	一般	1,592
人	正規職員	業務量 1.18 人 人件費	7,953	業務量 1.18 人 人件費	8,043	業務量 0.92	人	人件費	6,082
件	嘱託員	業務量 2.17 人 人件費	6,419	業務量 2.17 人 人件費	5,946	業務量 0.00	人	人件費	0
費	合計	人件費合計(B)	14,372	人件費合計(B)	13,989	人件費	合計(B)		6,082
事美	業費合計	事業費合計(A)+(B)	16,652	事業費合計(A)+(B)	16,173	事業費合	計(A)+(B)	7,881
	指標1単 たりコスト	評価指標(円/単位)	1,040,750	評価指標(円/単位)	851,194	評価指標(円/単	位)	606,240

○評価指標

		平成30年度	Ę	,	令和元年度	Ę		令和2年度	
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
講座開催数(回)	11	16	12	8	19	12	1	13	12
参加満足度(%)	85	87	80	91	89	80	95	89	80

〇事中評価

					評価	視点								今	後の方向性	ŧ		
	妥当	当性			有交	防性			効≅	뚇性		成日	拡充		4	2	1	レ
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	果の	現状維持		3	5		
低い	やや 低い	草やいか	高い	低い	やい	우드 우 <mark>년</mark>	高い	低い	やい	草をごった	高い	方向	縮小		6			
		総合評	価判定					総合	評価			性	休廃止	7				
B:事業	iiどおりに きの進めフ	方の改善	の検討						`					皆減	縮小	現状維持	拡え	t.
	::事業規模・内容・主体の見直し検討 ::事業の統合・休廃止の検討							,	١						コスト投	入の方向性		
前年度の課題等に 対する取組状況 ・県立長野図書館から借用したMAXHUBという配信機器の活用方法を確立した。 ・8月6日(木)の寺子屋学校職員向け講演会では、県立長野図書館をサテライト会場として、2拠点による双方向対話形式で開催し、 月24日(月)の図書館司書向け講演会も、4拠点を結んで開催した。																		
6ヶ月	き開始値 が経過し じた問題	し新た	め往来 •Withコ	に制限がロナにお	があり、言 らいて、言	主会場(講師がま	えんぱー E塩する	-く)に参 ことなく、	加者が 参加者	集う集合 の非来的	型の開 官型開催	催が	難しかった。 食討する必要	ことが要因 ^っ 要があるが、	である。	圏など都市部		
	加者が多いことや、内容をweb公開することへの講師のためらいなど、配慮すべき事項が多い。 ・講演内容を品質高く撮影するための撮影機材(デジタルカメラ、マイク)や、編集するための編集機材(PCや編集ソフトウェア)の予算を要求したい。 ・動画配信は、寺子屋以外の図書館運営でも有用する幅があると考えている。 ・令和3年度は、本の寺子屋10周年の節目を迎える年となるため、記念書籍の刊行と著名な作者による講演会を開催し、これまでを振り返りながら今後の活動につなげていくために必要な予算措置を要望する。																	
第1次	次評価コメント ・書籍『(仮称)「本の寺子屋」が地方を創る2』の出版と著名な作家による講演会開催は認める。 ・書籍刊行による書籍印税収入を特定財源として見込み計上すること。																	
第2次	第2次評価コメント・第1次評価のとおり実施すること。																	

区分	
取組内容	・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、7講座の延期や中止があったものの、本の寺子屋講演会と子ども本の寺子屋を合わせて講演会と講座を13回開催した。 ・本の寺子屋2講演をサテライト会場を設けた3館へ配信した。 ・イラストレータや印刷会社と連携した企画展示を行った。
成果	・本の寺子屋の参加人数は718人で参加満足度も目標値を上回り、コロナ禍でも魅力ある講座を実施できた。 ・サテライト会場へ配信した2講座は、図書館同盟締結館の神奈川県大和市立図書館、岐阜市立図書館に加え、県立長野図書館の 参加者にも講演を届けることができた。
課題	*出版社や書店との連携を更に強化しながら、多様な内容の魅力ある講座を開催していくことが必要である。 *新型コロナウイルス感染症対策が求められる中での講演会の開催にあたり、会場での対策を万全にし、参加者の居住地域の制限などを含めた安全性の高い運営をしていくことが必要である。

作成担当者	生涯学習部	3	図書館	職名	主事	氏名	藤牧 晃平	連絡先		4241
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史:		担当係長	3	図書館副館長	氏名	宇	治橋 多恵

〇実施計画

事	務事業名	市民読	書活動推	推進事	業						担当課			図書	書館	
目	₼ 対象:	乳幼児	から高齢	計ま きょう	での市」	民、団体								体系		10-2-2
	意図:	幼児・リ	見童の読	書活動	動を推進	重するとともに打	旦い手を	育成する	5 。				¥	新/継		継続
	手段:	乳幼児	・児童の	読書班	環境充実	実、ボランティア	育成講	座の開作	崖と活	動基盤	の提供、学校。	上の連携	まによ	区分		ソフト
	丁权.	る講座	開催、絵	本プレ	ノゼント									会計		一般
				1 //-	0年度					元年度				令和2		
	年度別 §業内容	〇学校と 〇市民語 〇子ども 〇絵本フ	この協働に。 この連携に。 読書活動が 読書活動、 プレゼントの こしプレゼン	よる読む ループ 、ボラン)実施	書支援活との連携・ティア育	動	〇学校と 〇市民語 〇子ども 〇絵本フ	の協働に。 の連携に。 読書活動が 読書活動 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	よる読む ループ ボラン 実施	書支援活 との連携 ティア育	動	〇学校と 〇市民記 〇子ども 〇絵本フ	:の協働に。 :の連携に、 売書活動が : 売き活動が :しプレゼントの :しプレゼン	よる読書 ループ。 ボラン 実施	書支援活 との連携 ティア育	動
		決算額	(A)		(千円)	1,978	決算額	(A)		(千円)	2,016	決算額	(A)		(千円)	1,814
		消耗品	費			1,240	消耗品	費			1,271	消耗品	費			1,259
	古光串	印刷製	本費			292	印刷製	本費			301	印刷製	本費			303
+	事業費 •財源	PTA親	子文庫活	5動補	助金	200	PTA親	子文庫活	動補	助金	200	PTA親	子文庫活	5動補.	助金	200
	24.1 11/1	市民読	書グループ	プ活動	補助金	70	市民読	書グルース	プ活動	補助金	70	市民読	書グルース	プ活動	補助金	52
		その他				176	その他				174					
		特定		0	一般	1,978	特定		0	一般	2,016	特定		0	一般	1,814
人	正規職員	業務量	0.14	人	人件費	944	業務量	0.14	人	人件費	954	業務量	0.27	人	人件費	1,785
件	嘱託員	業務量	1.04	人	人件費	3,076	業務量	1.04	人	人件費	2,850	業務量	0.00	人	人件費	0
費	合計		人件費合	計(B))	4,020		人件費合	計(B)	3,804		人件費合	計(B)		1,785
事	業費合計	事	業費合計	†(A)+((B)	5,998	事	業費合計	†(A)+((B)	5,820	事	業費合計	†(A)+(B)	3,599
	西指標1単 当たりコスト	評個	西指標(円	月/単	位)	772	評個	西指標(P]/単	位)	726	評值	西指標(円	9/単	位)	437

〇評価指標

		平成30年度	E		令和元年度		令和2年度		
評価指標	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
PTA親子文庫蔵書数(冊)	7,510	7,771	7,700	7,783	8,018	7,900	8,018	8,245	8,100
なかよし絵本受け渡し率(%)	56	64	70	64	59	70	21	98	70

〇事中評価

〇事中評価																	
評価視点								今後の方向性									
妥当性 有3					动性 効率性				率性		成	拡充		4	2	1)	
1	2	3	4	1	2	3 4 1 2 3 4					果の	現状維持		3	⑤ レ		
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	方向	縮小		6		
総合評価判定					総合評価					性	休廃止	7					
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討					В								皆減	縮小	現状維持	拡大	
C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討						D						コスト投入の方向性					
 ・感染症対策に配慮しながら、市民読書活動グループと連携した各種おはなし会を開催した。 ・市民読書活動グループ連絡会を開催し、各団体の横のつながりの強化を図った。 ・絵本プレゼント事業では、より多くの子どもに絵本を手渡せるように運用方法を検討しているほか、パンフレット及び絵本の見直しも同時に進めている。 																	
当年度開始後、約 6ヶ月が経過し新た 6ヶ月が経過し新た に生じた問題等 ・ 乳幼児健診が中止になったため絵本の受け渡し率が下がった。																	
新年度の予算要求 事項(改革・改善案) ・友人同士での本の紹介等様々なジャンルの本に触れる機会を設け、中学生の読書推進を効果的に図る取組を検討する。																	
第1次	・子ども読書活動推進計画の変更概要について印刷する場合は、包括予算で対応すること。																
第2次	評価コメント																

〇事俊評価												
区分	年間(4月~3月)											
取組内容	・県内の感染症警戒レベルに応じて行事を中止する期間があったが、再開後は感染症対策を講じながらおはなし会を開催した。 ・市民読書活動グループ代表者との連絡方法に電子メールを追加し、おはなし会の開催情報や読み聞かせボランティアへの協力依頼 などを迅速に行えるようにした。 ・絵本プレゼント事業では、7月から乳幼児健診が再開されたことに伴い、なかよし絵本の配布方法を健診会場で直接手渡すよう変更 した。また、絵本の一部見直しとリーフレットの更新を行った。 ・新規図書の購入で、PTA親子文庫の蔵書を充実させた。											
成果	・多くの子どもたちに「よ ・市民読書活動グルー! できた。 ・なかよし絵本の受け派 た絵本を健診会場で順	プとの連絡(まし場所を図	体制強化によ 図書館から健	り、学校 診会場に	でや児童館でのことに変更したことに	読み聞か こより、多く	せなど、グループの新 くの子どもに絵本を届け	たな活動 ることが	の場を提供 できた。また	することが		
課題	・第3次子ども読書活動 る必要がある。 ・感染症対策の面で本(る。 ・実施を見送った、学校	の巡回を見	合わせる学校	交もある:	ことから、PTA新	規子文庫の		いて引き	続き検討す	る必要があ		
作成担当者 生	E涯学習部	図書	館	職名	主任	氏名	小松 久美	連絡先	(内線)	4242		
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史:	生	担当係長	図書館副館長		氏名	宇治棉	喬 多恵		